元総社蒼海遺跡群（91街区）

建売住宅建築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

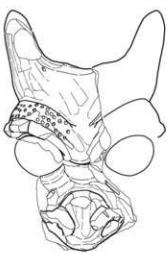
２０２３．７

前橋市教育委員会

有限会社毛野考古学研究所

元総社蒼海遺跡群（91街区）

建売住宅建築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書



Ｗ－１号溝出土中世鬼瓦（1/4）

２０２３．７

前橋市教育委員会

有限会社毛野考古学研究所

例　言

1．本報告書は、建売住宅建築に伴う元総社蒼海遺跡群（91 街区）の埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2．調査は、前橋市教育委員会文化財保護課の監理・指導のもと、住谷 芳朗より委託を受けた有限会社毛野考古学研究所が実施した。

3．発掘調査から報告書刊行に至る経費は、住谷 芳朗氏に負担して頂いた。

4．発掘調査の要項は次のとおりである。

遺　跡　所　在　地	前橋市元総社町 1730
遺　跡　略　称	4A282（元総社蒼海遺跡群 91 街区）
発 掘 調 査 期 間	令和５年３月１日～令和５年４月 13 日
整理・報告書作成期間	令和５年４月 14 日～令和５年７月 31 日
発 掘・整 理 担 当 者	淺間陽・高橋清文・松本喜臣（有限会社毛野考古学研究所）
測 量・空 撮 技 師	小出拓磨（有限会社毛野考古学研究所）

5．本書の編集は淺間が行った。原稿執筆はⅠを並木史一（前橋市教育委員会 文化財保護課）、それ以外を淺間が担当した。遺物写真は井上太（有限会社毛野考古学研究所）、遺物実測・観察表作成は中世の鬼瓦を淺間、それ以外を恵河内昭彦（有限会社毛野考古学研究所）が担当した。

6．発掘調査で出土した遺物および図面・写真などの資料は、前橋市教育委員会文化財保護課で保管する。

7．発掘調査・整理作業に関わった方々は次のとおりである（五十音順・敬称略）。

【発掘調査】荒井滋道　鈴木武　関通世　新開昌代　新川康生　根岸清　宮澤秀昭　山田久志

【整理作業】有賀裕美子　池内麻美　石川陽子　内田恵美子　黒田しのぶ　柴田弘信　瀬尾則子
関小百里　田村健志　富澤友理　真下弘美　山口昌子

8．発掘調査から報告書作成に至るまで、下記の諸氏・機関に御指導・御協力を賜った。記して感謝の意を表したい。（順不同・敬称略）

群馬グランディハウス株式会社　有限会社スミヤ測量

住谷芳朗　影森翔　高柳智　石川安司　永井智教　清水豊　小林朋恵

凡　例

1．座標値は日本測地系を使用し、水準値は海抜標高（m）を示す。

2．遺構の略称は、次のとおりである。　H：竪穴住居跡　W：溝　D：土坑　P：ピット

3．各図版の縮尺は遺構図が 1/60・1/30、遺物実測図が 1/6・1/4・1/3・1/2 を基本とし、スケールを付した。

4．遺構図中の重複する下位の遺構は粗い破線で表現した。

5．本文・挿表中の計測値において、〈　〉は残存値を、（　）は推定値を表す。

6．遺構図中の「S」は礫・石製品を「P」は土器・瓦類を表す。使用トーン・ドットの凡例は図中に示した。

7．遺構覆土および土器類の色調観察は『新版　標準土色帖』（農林水産技術会議事務局　財団法人日本色彩研究所監修 2006）に準拠した。

8．本書では指標火山噴出物（テフラ）の略称として以下の記号を用いた。なお、指標テフラの降下年代は、町田洋・新井房夫 2011『火山灰アトラス（第２刷）』東京大学出版会による。

As-A：浅間Ａ軽石（1783 年降下）　As-B：浅間Ｂ軽石（1108 年降下）　As-C：浅間Ｃ軽石（３世紀後半降下）

Hr-FA：榛名二ツ岳渋川テフラ（６世紀初頭降下）

目　次

例言 / 凡例 / 目次 / 挿図目次 / 表目次 / 写真図版目次
Ⅰ　調査に至る経緯……1
Ⅱ　地理的・歴史的環境……1
Ⅲ　調査の方法と経過……4
　1　調査の方法……4
　2　調査の経過……4
Ⅳ　標準堆積土層……5
Ⅴ　遺構と遺物……5
　1　調査の概要……5
　(1) 竪穴住居跡……5
　(2) 溝……6
　(3) 土坑……7
　(4) ピット……7
　(5) 遺構外出土遺物……7
Ⅵ　まとめ……29
写真図版 / 報告書抄録 / 奥付

挿図目次

Fig. 1　調査区位置図……1
Fig. 2　遺跡分布図……3
Fig. 3　標準堆積土層……5
Fig. 4　調査区全体図……6
Fig. 5　調査区東側遺構覆土掘削時の区画図……7
Fig. 6　全体図割図①・②……9
Fig. 7　全体図割図③・④……10
Fig. 8　遺構実測図1（H－1号住居跡）……11
Fig. 9　遺構実測図2（H－2～4号住居跡）……12
Fig. 10　遺構実測図3（H－5・6号住居跡）……13
Fig. 11　遺構実測図4（H－6号住居跡）……14
Fig. 12　遺構実測図5（H－7～10号住居跡）……15
Fig. 13　遺構実測図6（W－1・2号溝）……16
Fig. 14　遺物実測図1（H－1・2・4・5号住居跡）……17
Fig. 15　遺物実測図2（H－6～8・11号住居跡）……18
Fig. 16　遺物実測図3（W－1号溝：中世土器・土製品）……19
Fig. 17　遺物実測図4（W－1号溝：中世軒瓦）……20
Fig. 18　遺物実測図5（W－1号溝：中世丸瓦）……21
Fig. 19　遺物実測図6
　（W－1号溝：中世丸瓦・平瓦・道具瓦）……22
Fig. 20　遺物実測図7
（W－1号溝：中世平瓦・道具瓦・鬼瓦）……23
Fig. 21　遺物実測図8（W－1号溝：中世鬼瓦・鯱瓦・石製品・鉄製品・銅製品、古代土器・瓦）……24
Fig. 22　遺物実測図9（W－1号溝：古代瓦・土製品、W－2号溝、D－7・9・11・21・27・34号土坑、遺構外）……25
Fig. 23　仮称「小見廃寺」の寺域と周辺……30

表目次

Tab. 1　竪穴住居跡一覧表①……7
Tab. 2　竪穴住居跡一覧表②……8
Tab. 3　竪穴住居跡付属土坑・ピット一覧表……8
Tab. 4　溝一覧表……8
Tab. 5　土坑一覧表……8
Tab. 6　ピット一覧表……8
Tab. 7　中世瓦重量計測表……15
Tab. 8　非実測鉄滓・鉄製品計測表……15
Tab. 9　出土遺物観察表（1）……26
Tab. 10　出土遺物観察表（2）……27
Tab. 11　出土遺物観察表（3）……28
Tab. 12　出土遺物観察表（4）……29

写真図版目次

写真図版扉（調査区遠景、非実測鉄滓・鉄製品集合、W－1号溝55　鬼瓦の骨組み痕跡）
PL. 1　調査区 全景（上が東）
　H－1号住居跡 全景（西から）
　H－1号住居跡カマド1掘り方 全景（西から）
　H－2号住居跡 全景（西から）
　H－5号住居跡 全景（西から）
PL. 2　H－5号住居跡カマド 遺物出土状態（西から）
　H－6号住居跡 全景（西から）
　H－6号住居跡カマド 全景（西から）
　H－7号住居跡 全景（北東から）
　H－8・9・10号住居跡 全景（北から）
　W－1・2号溝 全景（北東から）
　W－1号溝上層 縦検出状態（北東から）
　W－1号溝中層 遺物出土状態（北東から）
PL. 3　W－1号溝中層 鬼瓦出土状態（北東から）
　W－1号溝橋脚か検出状態（北西から）
　D－1号土坑 全景（南から）
　D－7～9・18・19号土坑 遺物出土状態（西から）
　D－11号土坑 全景（東から）
　D－27・30・33号土坑 遺物出土状態（東から）
　標準堆積土層D（南から）
PL. 4　出土遺物1
　（H－1・2・4～8・11号住居跡・W－1号溝①）
PL. 5　出土遺物2（W－1号溝②）
PL. 6　出土遺物3（W－1号溝③）
PL. 7　出土遺物4（W－1号溝④）
PL. 8　出土遺物5（W－1号溝⑤）
PL. 9　出土遺物6
　（W－1号溝⑥・W－2号溝・D－7・9・11・21・27・34号土坑・遺構外）

Ⅰ　調査に至る経緯

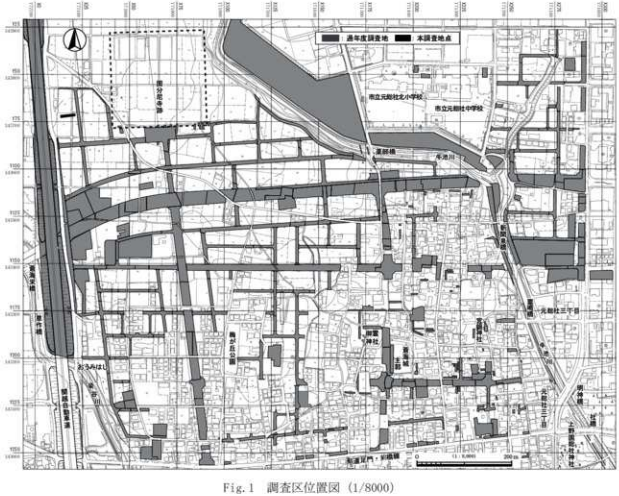
令和４年９月 20 日、元総社町における建売住宅建築を目的とした埋蔵文化財の取扱いについて前橋市教育委員会（以下「市教委」という。）へ照会があり、当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地「前橋市０１４２遺跡」内であるため、文化財保護法第 93 条第１項の届出を行う必要がある旨を回答した。同年 12 月 21 日、市教委による確認調査の結果、遺構を確認したため、遺跡の現状保存に向けて協議を行ったが、計画変更が困難であることから、記録保存を目的とした発掘調査を実施することで合意に至った。発掘調査の実施にあたっては、土地所有者である住谷芳朗（以下「開発者」という。）が発注することとし、また、市教委直営での調査実施が困難であるため、市教委の監理・指導の下、民間調査組織による発掘調査とした。

令和５年２月１日付けで開発者と民間調査組織である有限会社毛野考古学研究所の間で業務委託の契約が締結されるとともに、両者に市教委を加えた三者で協定を締結し、発掘調査に着手した。

なお、遺跡名称「元総社蒼海遺跡群（91 街区）」（遺跡コード：4A282）の「元総社蒼海」は土地区画整理事業名を採用し、「(91 街区)」は土地区画整理事業を調査原因とする発掘調査と区別するために街区名を付したものである。

Ⅱ　地理的・歴史的環境

本遺跡は相馬ヶ原扇状地の末端部に位置し、本調査地点は染谷川左岸の自然堤防上に立地する。その基盤は総社砂層である。なお、本遺跡周辺では関越自動車道に伴う発掘調査をはじめ、きわめて多数の調査履歴がある。


過年度調査地
本調査地点
市立元総社北小学校
市立元総社中学校
蒼海橋
染谷川
元総社三丁目
元総社三丁目
元総社蒼海遺跡
元総社蒼海遺跡
元総社蒼海遺跡

したがって地理的・歴史的環境についての詳細は元総社蒼海遺跡群（以下蒼海と呼称）（93・94 街区）や蒼海（48）等に詳しいため、そちらを参照願いたい。本章では検出された遺構の中心をなす古代から中世の歴史的環境について概観する。

奈良時代の元総社地域は国府が置かれたと地域と推定されており、蒼海の東側が国庁の推定域になっている。また、本調査区の周辺においては西側約 300 m の位置に国分僧寺、東側約 100 m の位置に国分尼寺が位置するなど、国府域に相応しい環境のもとに遺跡が立地している。国庁推定域に位置する蒼海（99・127・136）などでは掘込地業をもつ建物跡が、蒼海（95・136）で大型掘立柱建物跡が検出されており、国府の中枢たる様相を示している。また、国庁推定域から約 500 m 南には推定東山道駅路（国府ルート）が南西－北東方向へ走っている。さらに、これに準ずる道路については、蒼海（17 街区）や蒼海（14・30・93・141）等で国庁推定域を通り、山王廃寺（放光寺）方面へ至る南北道路（日高道）が、国分尼寺南側には蒼海（1）、蒼海（17 街区）、小見内Ⅲ・Ⅶ、上野国分僧寺・尼寺中間地域遺跡（以下中間地域遺跡と呼称）等で直線的に延びる東西道路が検出され、既往の調査事例を踏まえた古代交通網の復元が行われている（中村 2018・2020）。なお、国庁推定域や国分僧寺・尼寺の寺域内において古墳時代終末期（7 世紀代）までみられた竪穴住居跡の分布は 8 世紀代になると希薄になることが指摘されており、上記施設の造営に当たって一般集落における構成員の移住が行われたことが示唆される。本調査区やその周辺でも 8 世紀代の竪穴住居跡は前後の時期と比較して希薄であり、このような集落動態の影響下にあるものと推測される。

平安時代には竪穴住居の軒数が増加傾向にあり、9 世紀後半が特に顕著である。また、『類聚国史』には弘仁九年（西暦 818 年）の地震により、上野国が甚大な被害を受けた様子が記録されている。この地震によって国分僧寺や国分尼寺に葺かれた瓦が相当数落下したことが想定されており、これに呼応するように 9 世紀第 2 四半期以降、竪穴住居跡のカマド構築材に布目瓦が転用される例が多くなること指摘されている（日沖 2016）。

10 世紀代になると再び国庁推定域に竪穴住居跡の分布が認められるようになり、当該時期には蒼海（94 街区）で検出された礎石建ちの竪穴住居跡のように特異な形態も確認されている（伊藤 2018）。竪穴住居跡の検出例は 11 世紀代まで継続して確認されているが、12 世紀代には見られなくなる。なお、『将門記』には天慶 2 年（西暦 938 年）に上野国府が平将門によって占拠されたという記述がみられ、国府と蒼海集落の盛衰はこうした歴史的動乱の影響を少なからず受けていたであろう。

中世では、室町時代以降の上野国は関東管領上杉家の守護国となり、総社長尾氏がこの執事に当たった。この総社長尾氏によって永享元年（西暦 1429 年）に築城されたのが蒼海城である。蒼海城は国府域の地割を改変して築かれていることで知られ、複数の館跡が基盤の目状に連結して構成される。また、その構造から山崎一氏が示した縄張り図（山崎 1978）よりも規模が大きくなることが想定され、本調査区から約 350 m 南東に位置する小見Ⅲ遺跡 4 区では、幅 5 m、深さ 2.5 m の堀が東西に走行しており、蒼海城の最外郭の堀と想定されている（南田 2016）。なお、本調査区の東側に隣接する蒼海（34）2 区では東西・南北方向の区画溝や土坑墓群が検出されており、館跡が存在していた可能性がある。これらの区画溝は蒼海城に関連する堀跡や区画溝と平行ないし直交しており、それぞれの時期差などは不明ながら相互に何らかの関連性を有していた可能性が考えられる。

また、本遺跡の西側に位置する中間地域遺跡では方形を呈する基壇状遺構の痕跡やそれを区画する溝が検出されており、溝からは多量の中世瓦が出土している。これらの遺構群は一体として寺院跡と想定されており、仮称「小見廃寺」の名称が付されている（森本ほか 1986）。本調査区で検出されている溝もこの寺院跡を区画する溝の一部である可能性が高い。なお、小見廃寺から約 150 m 離れた高崎市東国分地内では応永 17 年（西暦 1410 年）の紀年銘が刻まれた銅製梵鐘が出土している。これは小見廃寺から南西約 430 m に位置する妙見寺に長尾明憲が寄進したものとされる。このほか、中間地域遺跡や国分僧寺の寺域内では多数の土坑墓が確認されており、中世においては墓域としても利用されている。

引用・参考文献

伊藤順一　2018『元総社蒼海遺跡群（94 街区）』 前橋市教育委員会・タカセン株式会社・有限会社毛野考古学研究所

髙橋清文　2021『元総社蒼海遺跡群（140）』 前橋市教育委員会

中村岳彦　2018「“推定上野国府”周辺の古代景観－元総社蒼海遺跡群の溝と道－」『群馬文化』332　群馬県地域文化研究協議会

中村岳彦　2020『元総社蒼海遺跡群（141）』 前橋市教育委員会

日沖剛史　2016「群馬県前橋市元総社地域における地形の形成と土地利用」『地域考古学』1 号　地域考古学研究会

南田浩正　2016「VI　まとめ」『元総社蒼海遺跡群（93 街区）』 前橋市教育委員会・株式会社しまむら・有限会社毛野考古学研究所

森本岩太郎ほか　1986『上野国分僧寺・尼寺中間地域』第 1 分冊　群馬県教育委員会・財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

山崎　一　1978「2　蒼海城」『群馬県古墳墓址の研究』上巻　群馬県文化事業振興会

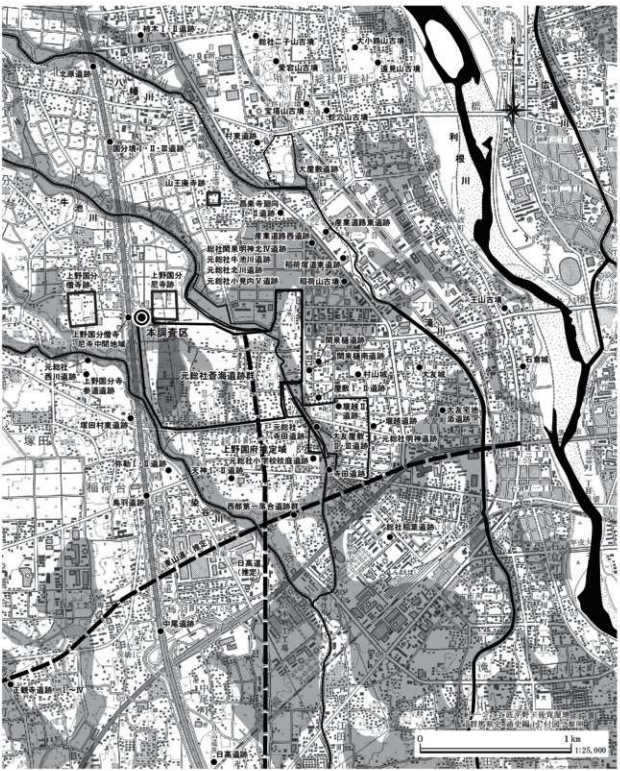


Fig. 2　遺跡分布図（髙橋 2021 に加筆修正：国土地理院発行『前橋』1/25,000 を改変）

Ⅲ　調査の方法と経過

1　調査の方法

発掘調査　表土掘削にはバックホウを使用し、遺構確認面（Ｖａ～Ｖｂ層）まで掘り下げた。遺構確認面はジョレンにて精査し、ドローンにより空撮した遺構検出状態の写真を基に調査方針や計画を立てた。なお、現地調査にあたって、調査区が道路沿いに面している部分にロープによる安全柵を設けて安全対策に配慮した。

遺構の掘削には移植ゴテ・ジョレン・スコップを使用し、遺構の深さや遺物の出土状態によって使い分けた。また、土層観察用のベルトを残して層位的な記録を随時行った。調査区東側では遺構が密集・重複して平面プランが不明瞭であったことから、比較的明瞭に確認できた遺構プランの主軸を参照して平行・直交する土層ベルトを複数設定し、ベルトによって分割された区画に１～10区の名称を付した。帰属遺構が不明な間はこの区画名と層位によって遺物を取り上げている。

遺構測量にはGPSによる基準点を設定し、平面図はトータルステーションで、断面図は任意の標高で水平に張った水糸からの手計りで作成した。図面の縮尺は1/20を基本とした。写真撮影は35mm判のフィルムカメラ(Nikon FM3)にて、カラーネガ・カラーリバーサルフィルムの双方を使用した。また、デジタル一眼レフカメラ(APS-C, Nikon D3400）を併用した。空撮にはドローン（DJI Mavic Ⅱ）を用いた。これらのカメラにより、土層断面・遺物出土状態および全景写真など調査の経過に応じた撮影を実施した。

整理調査　遺構図は平面図と断面図の整合を修正し、遺構の規模を計測した。遺物は接合にセメダインＣを使用し、適宜合成樹脂による補強を行った。注記はインクジェットマシンを使用して遺跡名・遺構名・取り上げ番号・層位を記し、遺跡の略称は「4A282」とした。遺物写真はデジタル一眼レフカメラ（フルサイズ, Nikon D850）で撮影した。遺物の実測は正射投影法による手実測で、必要に応じて拓本を用いた。遺構図・遺物図のトレースおよび図版作成にはAdobe Illustrator CS2/CS6/CCを、遺物写真の加工にはAdobe Photoshop CS6を、本文や写真図版の編集にはAdobe Indesign CS2を使用した。

2　調査の経過

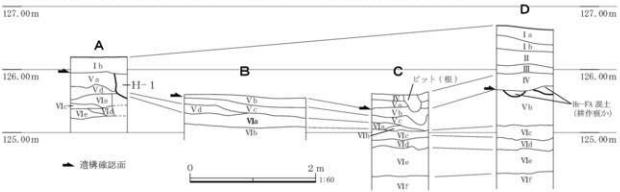
３月１日の安全柵設置後、重機掘削を開始した。午後から作業員を動員し、壁面精査・調査区西側の遺構確認を行う。２日には仮設トイレの設置・測量基準点の設置・調査区東側の遺構確認を実施し、遺構調査に移行した。３日には平面図・断面図の測量を開始している。遺構調査はAs-AおよびAs-B混入土で埋没した中近世の遺構から進めた。中世のＷ－１号溝は上層から大量の大型礫や遺物が検出され、出土状況の記録化と併行した調査に努めた。また、掘削中に古い溝（Ｗ－２号溝）の重複が判明する。Ｗ－１・２号溝は15日の全景写真撮影をもって調査終了としたが、終盤に安全対策上残されていた南端部への調査を加えた。住居跡など古代の遺構掘削は６日に調査区西側から着手した（Ｈ－１・２号住居跡)。16日には調査が東側へ及ぶものの、重複する不明瞭な遺構群全体に対してAs-C混入土を面的に掘り下げながら精査を行い、判明したものから順次調査を進めた（Ｈ－３～11号住居跡)。30日に空撮を実施した。その後、残りの住居跡掘り方や基本土層トレンチの掘削を継続し、４月５日に掘削作業が、６日に測量が終了した。12･13日に調査区の埋め戻しおよび埋土の転圧を実施した。そして、器材撤収作業、仮設トイレの汲み取り・搬出をもって現地にかかる作業が終了した。なお、３月13日・23日午後、４月３日は雨天のため現場作業を中止している。

整理作業・報告書作成にあたっては、遺構図面の修正・図版作成を５月７日～６月10日、遺物の洗浄・注記・接合・復元を４月14日～５月23日、遺物の写真撮影・画像処理を５月15日～６月16日、遺物の実測・トレース・図版作成を４月28日～６月19日、原稿執筆・編集を６月26日～７月７日、原稿入稿を７月10日、報告書の印刷・製本・納品を７月24日～７月31日の工程で進めた。

Ⅳ　標準堆積土層

調査区内にA～Dの４箇所のトレンチを設定し、観察・記録を行った。標準堆積土層はⅠ～Ⅵ層に大別される。

Ⅰ層は現代の盛土層（Ⅰａ)・耕作土層（Ⅰｂ）である。Ⅱ層は浅間A軽石（As-A）混入土層、Ⅲ層は浅間B軽石（As-B）混入土層である。軽石の混入量によりⅢａ層とⅢｂ層に細別される。Ⅳ層は浅間C軽石（As-C）及び榛名二ツ岳渋川テフラ（Hr-FA）混入土層である。Ⅴ層はAs-Cを含まない黒褐色土層である。わずかに白色の軽石粒を含む。黒味の強いⅤａ層とやや明るいⅤｂ～Ⅴｄ層に細別される。Ⅵ層は総社砂層である。粒径によりⅥａ～Ⅵｆ層に細別される。Ⅵｃ層は非常に硬質な砂質土である。凝灰質砂岩と称され、竪穴住居跡のカマド構築材などに利用されている。



標準堆積土層　土層説明

Ⅰａ．盛土層。大量の礫を含む。
Ⅰｂ．灰黄褐色土（10YR6/2）締やや強。粘弱。As-A中量。下部に鉄分が沈着。現代の水田耕作土層。
Ⅱ．灰黄褐色土（10YR6/2）締あり。粘やや弱。As-A多量含む。
Ⅲａ．褐灰色土（10YR4/1）締やや弱。粘やや弱。As-B多量含む。
Ⅲｂ．灰黄褐色土（10YR4/2）締やや弱。粘弱。As-B大量含む。
Ⅳ．黒褐色土（10YR3/2）締ややあり。粘やや弱。As-C・Hr-FA軽石（φ１～5mm）多量含む。
Ⅴａ．黒褐色土（10YR2/2）締やや弱。粘あり。
Ⅴｂ．黒褐色土（10YR3/2）締やや強。粘性やや弱。白色粒多量、Ⅵ層ブロック（φ５～30mm）少量含む。
Ⅴｃ．にぶい黄褐色土（10YR6/3）締やや強。粘やや強。灰白色粘質土ブロック（10YR8/2）・灰黄褐色シルトブロック（10YR4/2）多量含む。
Ⅴｄ．にぶい黄褐色土（10YR5/3）締やや強。粘やや強。灰白色粘質土ブロック（10YR8/2）・灰黄褐色シルトブロック（10YR4/2）中量含む。
Ⅵａ．明褐灰色土（7.5YR7/1）締やや強。粘あり。白色粒多量、黒褐色粘質土ブロック（φ１～2cm）少量含む。
Ⅵｂ．灰黄褐色土（10YR5/2）締やや強。粘やや弱。シルト質。
Ⅵｃ．にぶい黄褐色土（10YR5/3）締強。粘やや弱。シルト・砂ブロック（φ５～50mm）多量含む。
Ⅵｄ．灰白色土（10YR8/2）締やや強。粘強。Ⅵｅ層ブロック（φ５～50mm）少量含む。黒色粘質土（10YR1.7/1）斑点状に多量含む。
Ⅵｅ．灰黄褐色シルト（10YR6/2）とにぶい黄褐色シルト（10YR7/3）の互層。締やや強。粘やや弱。ラミナ状に堆積。黒色粘質土（10YR1.7/1）の薄い層あり。
Ⅵｆ．にぶい褐色土（7.5YR5/3）締やや強。粘弱。粗砂（φ～1mm主体）。

Fig.3　標準堆積土層

Ⅴ　遺構と遺物

1　調査の概要

調査の結果、竪穴住居跡11軒、溝2条、土坑39基、ピット34基を確認した（fig.4・6・7）。W－1号溝より東側では遺構の重複が著しく、遺構確認が困難であったため、遺構の主軸方位に平行または直交する土層ベルトを残しながら全体的に10～20cm掘り下げを行った。その際、土層ベルトで分割された地区を1～10区に分け、出土した遺物はⅣ層（As-C・Hr-FA混入土層）に帰属するものとして層位と区画名を付して取り上げた（fig.5）。

(1) 竪穴住居跡

検出位置と分布　調査区西側の3軒（H－1・3・4住）と東側の8軒（H－2・5～11住）に大きく分かれる。西側では散在して存在し、東側では重複・密集した状況が確認された。全体を調査できた住居跡はなく、いずれも調査区外へ遺構プランが延びている。**構造**　いずれの住居跡にも貼床が施され、床面はやや硬く締まる。強い光沢を伴う明瞭な硬化面が認められたものはない。明確な柱の痕跡は確認できなかったが、H－5号住居跡では不規則に配置されるP1～P4が検出され、深さは4～10cmを測る。貯蔵穴はH－1・6号住居跡で確認された。H－1・5・9号住居跡では一部壁周溝が認められた。**カマド**　カマドが確認された竪穴住居跡はH－1・5・6号住居跡である。いずれも東側に付設される。H－1号住居跡では東壁際に2基のカマドが確認された。カマド1の底面では凝灰質砂岩の切石が立位に埋設されていた（長さ22cm×

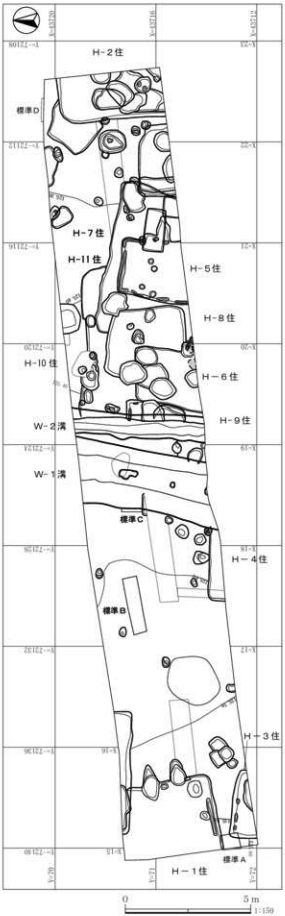


Fig. 4　調査区全体図（1/150）

幅 19cm ×厚さ 12cm、重さ 3.6kg)。灰は面的に認められない。燃焼部及び煙道は竪穴壁面のラインまで閉塞された状況が認められた。カマド2は燃焼部の底面で灰が面的に認められた。以上からカマド1（古）→カマド2（新）の造り替えと判断した。

H－5号住居跡では煙道先端部でわずかに焼土が確認されたものの、灰や焼土粒子はほとんど確認できなかった。付設位置や平面形状からカマドと判断したが、焼土化範囲や灰の面的な集中など明確な使用の痕跡を確認することはできなかった。燃焼部付近では袖石の抜き取り痕とみられるピット2基が確認された。また、カマドの西側に竪穴壁面から東側へ突出する方形の張り出しが確認された。重複遺構ではないことから古いカマドの痕跡の可能性がある。

H－6号住居跡では竪穴東壁のラインから東へ約 20cm の位置で安山岩の円礫2個が立位の状態で埋設されていた（北：長さ 23cm ×幅 15cm ×厚さ 7cm、重さ 3.6kg、南：長さ 18cm ×幅 16cm ×厚さ 9cm、重さ 3.8kg)。礫間の幅は 20cm で煙道部の幅とほぼ近い。煙道部のみ天井が残存していた。左側の埋設礫は内壁側から外壁側にかけてススと被熱の痕跡が認められた。

H－8号住居跡はカマドの内壁を確認できなかったが、東壁中央付近の床面に東西方向に主軸方位をもつ楕円形の浅い土坑が検出され、焼土がわずかに検出された。このことから、床面より低い部分が残存し、カマド壁面はⅣ層の形成時に破壊されているものと推測する。**出土遺物**　覆土中から主に土師器、須恵器、布目瓦が出土している（Fig. 14・15, Tab. 9, PL. 4)。H－2号住居跡からは羽釜が出土しているが、小片のため図示し得なかった。H－2・3・5～7号住居跡からは、鉄滓や輪羽口が出土している（Tab. 8)。これらは床面からやや浮いた位置で出土していることから、竪穴住居廃絶後に流入ないし廃棄された遺物と考えられる。周辺に鍛冶関連遺構の存在が示唆される。瓦は平瓦が最も多く、丸瓦がそれに次ぐ。H－1号住居跡ではカマド2の前で瓦片が多量に出土している。**廃絶時期**　時期の判明しているものでは9世紀代が6軒で最も多く、10 世紀代の3軒がそれに続く。

(2) 溝

検出位置　W－1・2号溝ともに調査区中央部を南北方向に走向し、重複する。土層断面の重複から新旧関係はW－2号溝（古）→W－1号溝（新）である。既往の調査区の全体図と照合した結果、上野国分僧寺・尼寺中間地域遺跡で検出された寺域を区画する東西方向の溝に対する南北方

Fig. 5　調査区東側遺構覆土掘削時の区画図（1/300）

向の溝であることが判明した。

覆土　全体的にAs-Bを含む。B断面では覆土中位に水性堆積と推定されるシルト層が確認された。総社砂層（Ⅵ層）を大きく掘り込んでいるが、Ⅵ層を主体とした崩落土は確認できなかった。また、覆土中位で多量の礫が検出された。出土状況から南西側から北東側へ廃棄された状況が窺われた。礫の隙間には中世の土器や石製品、瓦も見られた。

底面の状況　底面にピットが見られた。また、P－2・26・27・33・34は柱間距離が1.4～1.6mを測り、溝跡に直交するように配列されている。このうちP－34はW－1号溝の底面から掘り込まれていることが確認された。以上から、これらのピット群は橋脚（木橋）の柱穴である可能性が考えられる。

出土遺物　W－1号溝覆土の上層～下層にわたって大量の遺物が出土している（Fig. 16～22, Tab. 7・9～12, PL. 4～9）。土器、瓦、石製品、銅製品、鉄製品、獣骨が出土しており、瓦が主体である。瓦は古代の瓦もわずかに含まれるが、大半は中世の瓦である。中世の瓦は軒丸瓦（21～25）、軒平瓦（26～28, 79）、道具瓦類（41・53・54）、鬼瓦（55～66）、鯱瓦（67）が確認できた。

(3) 土坑

39基検出された。覆土の様相から①As-BやAs-A混入土層で埋没する土坑、②As-Bを含まず、As-CやHr-FAを含む土坑に大別される。①ではD－5号土坑より中世の瓦が出土し、同じく中世の瓦が出土したW－1・2号溝と近接した時期と考えられる。長方形のD－6号土坑は近世のイモ穴の特徴と合致する。②では鉄製品が出土したD－11号土坑が特筆される。D－11・22号土坑では灰が検出された。D－27号土坑からは緑釉陶器瑞が出土している。

(4) ピット

34基検出された。掘立柱建物跡や柵列として明確に捉えられたものはない。ただし、P－2・26・27・33・34号ピットはW－1号溝で触れたように橋脚の可能性が考えられる。覆土の様相から土坑と同様に①As-BやAs-A混入土層で埋没する土坑、②As-Bを含まず、As-CやHr-FAを含むピットに大別される。

(5) 遺構外出土遺物（fig. 22）

1は縄文中期の加曽利EⅠ～EⅡ式深鉢の胴部破片である。2は縄文晩期前半の粗製深鉢と推定した。3は柱状砥石、4・5は鉄製の角釘である。

Tab. 1　竪穴住居跡一覧表①（単位：m）

遺構名	長軸	短軸	深さ	遺物	所見	時期・備考
H－1住	〈3.05〉	〈3.97〉	0.25	師（甕・坏）、須（蓋・坏）、瓦（丸・平）	カマド造り替え。カマドⅠ（古）→カマドⅡ（新）。重複：H－1住（古）→D－13土→D－6土（新）	平安時代（9世紀代）
H－2住	〈4.13〉	〈1.77〉	0.6	師（甕・坏）、須（甕・羽・坏・瓶）、瓦（平）、滓	掘形土坑D－7～9・12・14・18・19・21・39土がW－1号溝から掘り込まれる。	平安時代（10世紀前半）
H－3住	2.7	〈1.13〉	0.14	師（甕）、須（甕・坏）、瓦（平）、滓	カマド不明。	平安時代（9世紀代）
H－4住	〈2.82〉	〈0.70〉	0.22	縄（深鉢）、師（甕・坏）、須（甕・坏）、瓦（平）	カマド不明。	平安時代（9世紀代） 縄文土器は中期か
H－5住	〈2.90〉	〈2.20〉	0.58	縄（深鉢）、師（甕・台付甕・坏）、須（甕・坏・瓶・皿）、瓦（丸・平）、鉄、滓、輪羽口	カマドに灰はとんどなし。重複：H－7住（古）→H－5住→D→38土→D－4土→D－2土（新）。	平安時代（9世紀後半）

Tab.2　竪穴住居跡一覧表②（単位：m）

遺構名	長軸	短軸	深さ	遺物	所見	時期・備考
H－6 住	〈3.10〉	〈2.20〉	0.62	師（甕・台甕・坏）、須（壺・甕・鉢・蓋・埦・甕）、灰（埦）、瓦（丸・平）、浮	カマド造り替え大。重複：H－10 住（古）→H－8 住→H－6 住（新）。鉄浮多数出土。採掘土坑D－27・30・33・37 土が埋土中から掘り込まれる。類は 8 世紀代の遺物。	平安時代（10 世紀前半）
H－7 住	6.02	〈3.91〉	0.25	須（壺・蓋・坏）、瓦（丸・平）、浮	大型住居。カマド不明。	平安時代（9 世紀代）
H－8 住	3.14	〈2.67〉	0.34	鍋（西麻）、師（甕）、須（甕・壺・坏・埦）、瓦（丸・平）	カマドは P1 部分か。重複：H－10・11 住（古）→H－7 住→H－8 住→H－6 住（新）。	平安時代（10 世紀前半）
H－9 住	〈3.87〉	〈0.83〉	0.402	師（甕・台付甕・坏）、須（蓋・坏）、灰（埦）、瓦（平）	W－1・2 溝に大半が壊される。W－1・2 溝間には床面が残存。須恵器蓋は上野型有蓋短脚壺蓋。	平安時代（9 世紀代）
H－10 住	〈3.87〉	〈2.17〉	0.24		カマド不明。H－11 住との重複関係不明。	平安時代か
H－11 住	〈2.00〉	〈1.06〉	0.10	石（砥）	カマド不明。	平安時代か

Tab.3　竪穴住居跡付属土坑・ピット一覧表（単位：m）

遺構名	平面形	長軸	短軸	深さ	所見
H－1 住 D1	楕円形	0.65	0.55	0.28	貯蔵穴か。
H－1 住 P1	楕円形	0.4	0.32	0.18	
H－1 住 P2	長方形	0.28	0.19	0.09	カマド袖石理設痕か。
H－2 住 D1	楕円形	0.19	0.33	0.12	床下土坑。焼土を多量に含む。

遺構名	平面形	長軸	短軸	深さ	所見
H－4 住 D1	楕円形	0.67	0.46	0.09	床下土坑。
H－6 住 D1	楕円形	0.89	0.73	0.14	貯蔵穴か。
H－8 住 P1	楕円形	0.63	0.44	0.16	カマド焼地部痕跡か。
H－9 住 P1	楕円形	0.26	0.17	0.15	

Tab.4　溝一覧表（単位：m）

遺構名	走向方位	幅（最小～最大）	深さ	覆土	遺物	所見	時期・備考
W－1 号溝	N－10°－E	2.28～3.80	1.65	Ar-B 混土	縄、須（坏・甕・羽釜）、瓦（中世）、瓦（古代）、陶（内・古瀬戸・常滑）、鉄、石（臼・火・砥）、鉄、輪羽口、鉄滓（馬かり鞍）か。	重複：W－2 溝（古）→W－1 溝（新）。断面逆台形状を呈し、底面は平坦。覆土上位で礫が多量に出土。上位～中位にかけて多量の遺物が出土（廃棄か）。	中世（15 世紀後半）
W－2 号溝	N－1°－E	0.93～1.25	1.43	Ar-B 混土	瓦（中世：丸・平）	重複：W－2 溝（古）→W－1 溝（新）。	中世

Tab.5　土坑一覧表（単位：m）

遺構名	長軸	短軸	深さ	覆土	遺物／所見
D－1 土	1.18	〈0.72〉	0.32	①	師（甕）、須（坏・甕・羽釜）、瓦
D－2 土	1.69	0.82	0.07	①	青磁（椀）、染付
D－3 土	0.89	〈0.17〉	0.19	①	
D－4 土	0.89	〈0.62〉	0.33	①	須（坏）、鉄（釘）
D－5 土	2.65	〈1.37〉	0.06	①	
D－6 土	4.87	〈0.69〉	0.08	①	中世瓦
D－7 土	0.69	0.62	0.32	②	師（甕）、須（坏・埦・甕・羽釜）、灰（埦）、瓦、鉄 / 縄社砂層の採掘土坑か。
D－8 土	1.11	0.74	0.37	②	師（甕）、須（埦）、瓦（平）
D－9 土	1.31	0.83	0.23	②	須（坏・羽釜）、灰（皿）、瓦（丸）/ 縄社砂層の採掘土坑か。
D－10 土	〈1.43〉	0.77	0.22	②	須（坏）、瓦（平）
D－11 土	1.05	0.9	0.21	②	須（坏）、瓦（丸）、鉄 / 底面に灰。中央に窪み。
D－12 土	0.78	0.4	0.11	②	
D－13 土	1.77	〈0.38〉	0.16	②	
D－14 土	〈0.67〉	〈0.44〉	0.16	②	
D－15 土	0.59	〈0.52〉	0.1	②	
D－16 土	0.65	〈0.47〉	0.1	②	縄社砂層の採掘土坑か。
D－17 土	0.57	0.54	0.17	②	瓦（古代）/ 縄社砂層の採掘土坑か。
D－18 土	〈1.2〉	0.91	0.17	②	鉢
D－19 土	0.35	0.24	0.13	②	
D－20 土	1.21	0.55	0.44	②	
D－21 土	1.28	〈0.29〉	0.06	②	

遺構名	長軸	短軸	深さ	覆土	遺物／所見
D－22 土	1.12	〈0.92〉	0.15	②	須（坏・羽釜）、甕、瓦（丸）、鉢 / 底面に灰。
D－23 土	0.85	0.68	0.11	②	
D－24 土	0.91	0.67	0.19	②	縄
D－25 土	1.54	〈0.5〉	0.15	②	
D－26 土	1.06	0.39	0.08	②	須
D－27 土	2.02	1.66	0.25	②	須（甕）、縄 / H－6 住覆土採掘土坑か。
D－28 土	1.07	0.87	0.31	②	須（甕）
D－29 土	1.04	0.67	0.2	②	
D－30 土	1.28	0.85	0.25	②	須（坏・羽釜）、甕、瓦（平）/ H－6 住覆土採掘土坑か。
D－31 土	0.94	0.83	0.09	②	
D－32 土	1.26	0.6	0.13	②	
D－33 土	0.87	〈0.83〉	0.36	②	師（坏・甕）、瓦 / H－6 住覆土採掘土坑か。
D－34 土	〈1.24〉	0.94	0.12	②	瓦（古代平）/ H－6 住を切る。
D－35 土	0.68	〈0.54〉	0.17	②	
D－36 土	0.56	〈0.5〉	0.19	②	
D－37 土	〈0.90〉	—	0.40	②	須（高台・甕）、瓦（平）/ H－6 住を切る（断面で検出）。
D－38 土	〈1.24〉	—	0.19	②	H－5 住を切る（断面で検出）。
D－39 土	〈1.15〉	—	0.20	②	H－2 住を切る（断面で検出）。覆土に大量の砂層あり。

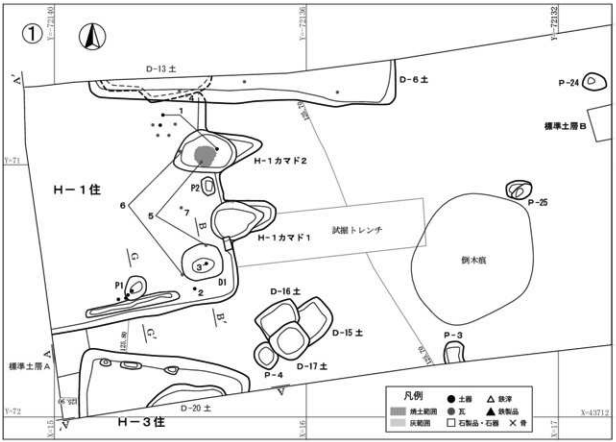
Tab.6　ピット一覧表（単位 cm）

No.	長軸	短軸	深さ	覆土	遺物／所見
P－1	37	23	24	①	
P－2	37	36	47	①	W－1 溝柱穴か。
P－3	34	30	13	②	
P－4	40	(36)	13	②	
P－5	40	28	34	②	師（甕）、瓦（平）
P－6	54	47	19	②	
P－7	43	42	15	②	鍋（中期深鉢）
P－8	63	49	21	②	
P－9	34	22	20	②	
P－10	56	47	13	②	瓦（丸）
P－11	36	29	16	②	

No.	長軸	短軸	深さ	覆土	遺物／所見
P－12	37	36	12	②	
P－13	36	〈11〉	8	②	
P－14	51	34	23	②	師（甕）
P－15	24	〈21〉	11	②	
P－16	34	33	16	②	
P－17	35	33	17	②	
P－18	53	47	31	②	
P－19	35	24	13	②	
P－20	30	27	11	②	
P－21	29	27	16	②	
P－22	26	24	18	②	

No.	長軸	短軸	深さ	覆土	遺物／所見
P－23	33	20	15	②	
P－24	37	27	16	②	
P－25	40	29	18	②	
P－26	32	26	7	②	W－1 溝柱穴か。
P－27	31	30	12	②	W－1 溝柱穴か。
P－28	19	19	16	②	
P－29	53	31	09	②	
P－30	32	28	10	②	
P－31	47	36	27	②	
P－32	55	32	15	②	
P－33	22	17	11	①	W－1 溝柱穴か。
P－34	30	〈19〉	〈25〉	①	W－1 溝柱穴か。

※遺物略称：縄＝縄文土器、師＝土師器、須＝須恵器、灰＝灰釉陶器、緑＝緑釉陶器、陶＝陶器、磁＝磁器、内＝内耳鍋、台甕＝台付甕。土＝土製品、瓦＝瓦、石＝石製品、臼＝石臼、火＝五輪塔火輪、砥＝砥石、鉄＝鉄製品、浮＝鉄浮、鉄＝鉄製品（ ）内は器種



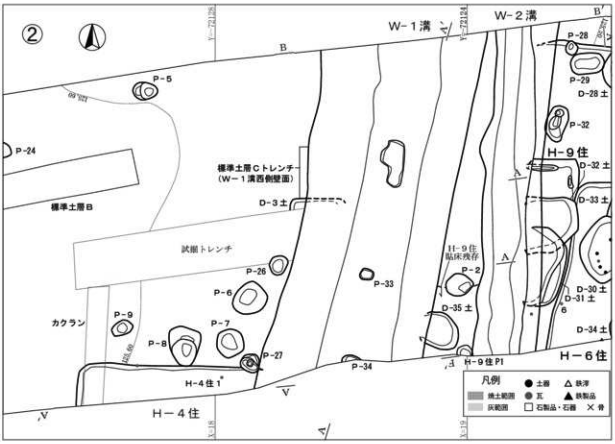
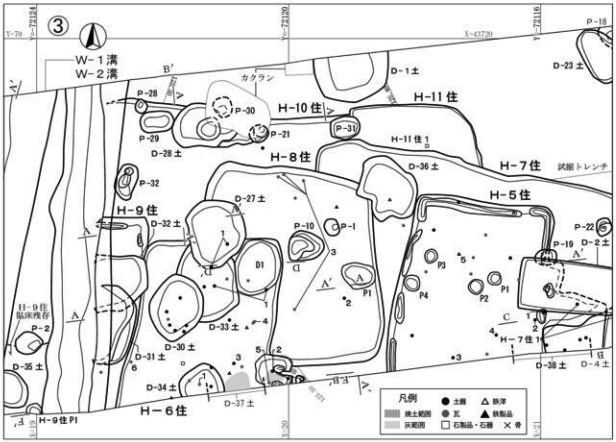


Fig.6　全体図割図①・②（1/60）



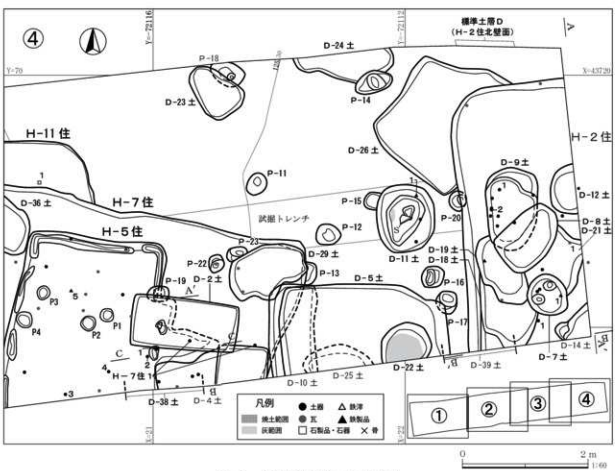
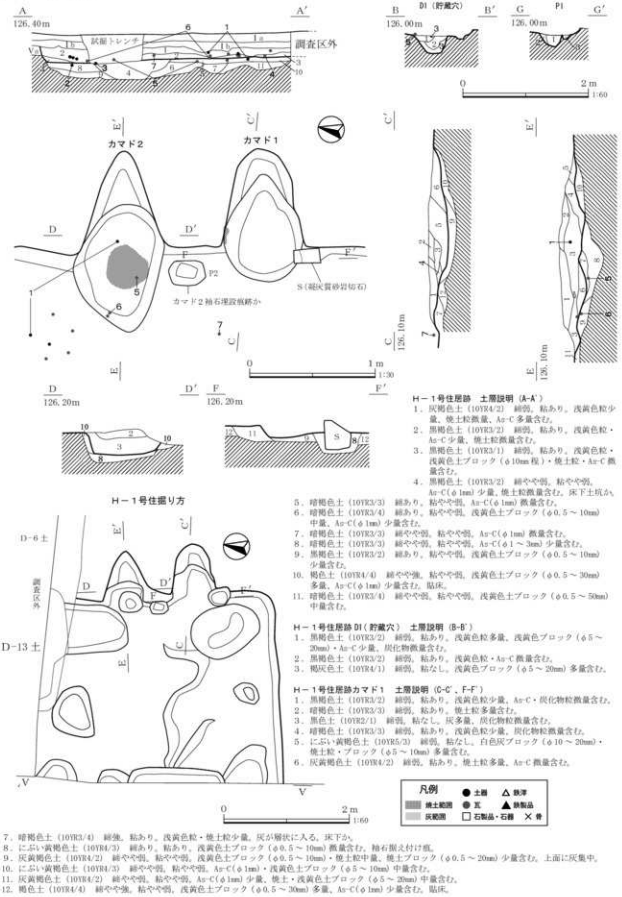


Fig. 7　全体図割図③・④ (1/60)

H－1号住居跡



7．暗褐色土（10YR3/4）　締強。粘あり。浅黄色粒・焼土粒少量。灰が層状に入る。床下か。
8．にぶい黄褐色土（10YR4/3）　締あり。粘あり。浅黄色土ブロック（φ0.5～10mm）微量含む。柚石据え付け痕。
9．灰黄褐色土（10YR4/2）　締やや弱。粘やや弱。浅黄色土ブロック（φ0.5～10mm）・焼土粒中量。焼土ブロック（φ0.5～20mm）少量含む。上面に灰集中。
10．にぶい黄褐色土（10YR4/3）　締やや弱。粘やや弱。As-C（φ1mm）・浅黄色土ブロック（φ5～10mm）中量含む。
11．灰黄褐色土（10YR4/2）　締やや弱。粘やや弱。As-C（φ1mm）少量。焼土・浅黄色土ブロック（φ5～20mm）中量含む。
12．褐色土（10YR4/4）　締やや強。粘やや弱。浅黄色土ブロック（φ0.5～30mm）多量。As-C（φ1mm）少量含む。貼床。

Fig.8　遺構実測図１（H－１号住居跡）

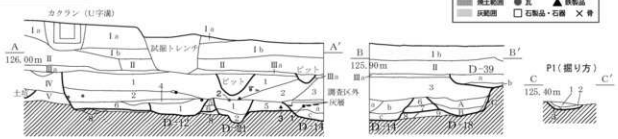
H－1号住居跡カマドZ　土層説明（D-D′、E-E′）

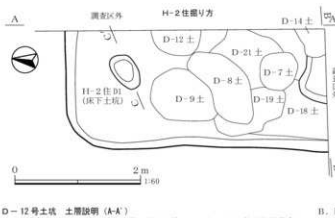
1．灰黄褐色土（10YR4/2）　締強。粘なし。浅黄色粒・焼土粒少量。As-C多量含む。
2．灰黄褐色土（10YR4/3）　締強。粘あり。焼土ブロック（φ5～10mm）多量。As-C少量含む。
3．にぶい黄褐色土（10YR4/3）　締強。粘あり。焼土粒・焼土ブロック（φ5～10mm）・As-C少量。炭ブロック（φ10～20m）多量含む。
4．褐灰色土（10YR5/1）　締強。粘なし。焼土ブロック（φ5～10mm）・炭ブロック（φ10～20mm）少量。As-C微量含む。
5．黒褐色土（10YR3/1）　締強。粘なし。焼土ブロック（φ5～10mm）少量含む。
6．黒褐色土（10YR3/1）　締強。粘あり。焼土粒少量。炭ブロック（φ10～30mm）多量含む。
7．赤褐色土（5YR4/6）　締強。粘なし。焼土ブロック主体。
8．にぶい黄褐色土（10YR5/3）　締強。粘あり。浅黄色粒多量。焼土粒中量。炭多量。黒褐色土ブロック（φ0.5～10mm）少量含む。掘り方。
9．褐黄褐色土（10YR4/4）　締やや弱。粘やや弱。黒褐色土ブロック（φ5～10mm）中量含む。
10．灰黄褐色土（10YR4/2）　締あり。粘やや弱。黒褐色土ブロック（φ5～10mm）・As-C（φ1mm）少量。焼土粒微量含む。
11．暗褐色土（10YR3/4）　締強。粘あり。浅黄色粒・焼土粒少量。炭が層状に入る。床下か。貼床。

H－1号住居跡P1　土層説明（G-G′）

1．黒褐色土（10YR3/2）　締弱。粘あり。浅黄色土粒少量。焼土粒微量含む。
2．黒褐色土（10YR3/2）　締弱。粘あり。浅黄色土ブロック（φ5～10mm）少量含む。
3．黒褐色土（10YR3/2）　締弱。粘あり。浅黄色粒・浅黄色土ブロック（φ5～10mm）多量。As-C少量含む。掘り方。

H－2号住居跡





H－2号住居跡　土層説明（A-A′、B-B′）

1．暗褐色土（10YR3/3）　締やや強。粘やや弱。As-C（φ1～3mm）中量。炭化物粒微量含む。
2．黒褐色土（10YR3/2）　締やや弱。粘やや弱。As-C（φ1～5mm）多量。炭化物粒・焼土粒微量含む。
3．黒褐色土（10YR3/1）　締やや強。粘やや弱。As-C（φ1～7mm）多量。焼土粒・炭化物粒微量含む。
4．黒褐色土（10YR2/2）　締あり。粘あり。As-C（φ1mm）少量。焼土粒微量含む。
5．暗褐色土（10YR3/4）　締やや強。粘やや弱。As-C（φ1～3mm）多量。黒褐色土ブロック As-C（φ0.5～20mm）少量。炭・炭化物粒微量含む。
6．黒褐色土（10YR3/2）　締やや強。粘やや強。As-C（φ1mm）微量含む。
7．暗褐色土（10YR3/4）　締やや強。粘あり。As-C（φ1mm）微量含む。地山に似る。
8．暗褐色土（10YR3/3）　締やや強。粘あり。掘り方。
9．灰黄褐色土（10YR4/2）　締やや強。粘やや強。灰白色粘質土ブロック（φ0.5～20mm）多量含む。貼床か。

D－12号土坑　土層説明（A-A′）

1．暗褐色土（10YR3/3）　締やや強。粘やや強。As-C（φ1mm）・焼土粒微量含む。

D－14号土坑　土層説明（A-A′、B-B′）

a．黒褐色土（10YR2/1）　締やや弱。粘やや弱。As-C（φ1～3mm）中量。焼土粒・炭化物粒少量含む。炭のうすい層あり。
b．黒褐色土（10YR3/2）　締あり。粘あり。As-C（φ1～2mm）・黒褐色土ブロック（φ0.5～20mm）微量含む。
c．黒褐色土（10YR2/2）　締やや弱。粘やや強。焼土粒微量含む。

D－21号土坑　土層説明（A-A′）

1．黒褐色土（10YR3/2）　締あり。粘やや弱。As-C（φ1～3mm）中量。焼土粒・炭化物粒少量含む。
2．黒褐色土（10YR3/1）　締やや弱。粘やや弱。砂ブロック（φ1～20mm）中量含む。

D－18号土坑　土層説明（B-B′）

A．黒褐色土（10YR3/2）　締あり。粘やや弱。As-C（φ1～5mm）中量含む。
B．灰黄褐色土（10YR4/2）　締やや強。粘やや強。黒褐色土ブロック（φ0.5～30mm）多量。As-C（φ3mm）微量含む。
C．黒褐色土（10YR2/2）　締あり。粘やや弱。As-C（φ1mm）少量含む。

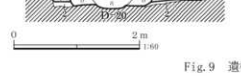
D－39号土坑　土層説明（B-B′）

a．暗褐色土（10YR3/4）　締あり。粘弱。As-B・C多量含む。
b．にぶい褐色土（7.5YR5/4）　締やや強。粘弱（なし）。砂・礫（φ1～10mm）大量（主体）含む。

H－2号住居跡P1　土層説明（C-C′）

1．黒褐色土（10YR3/2）　締やや弱。粘あり。焼土粒・ブロック（φ0.5～20mm）中量含む。
2．黒褐色土（10YR3/1）　締やや弱。粘あり。焼土粒・ブロック（φ0.5～10mm）少量含む。
3．暗褐色土（10YR3/3）　締あり。粘あり。黒褐色土ブロック（φ0.5～10mm）少量含む。

H－3号住居跡



H－4号住居跡

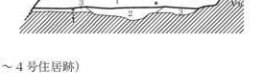


Fig.9　遺構実測図２（H－２～４号住居跡）

H－3号住居跡　土層説明（A-A'）

1．黒褐色土（10YR3/1）　締やや弱，粘やや弱，As-C（φ1～2mm）微量含む。
2．暗褐色土（10YR3/4）　締あり，粘やや弱，
　黒褐色土ブロック（φ0.5～20mm）中量含む，掘り方。

D－20号土坑　土層説明（H－3住A-A'）

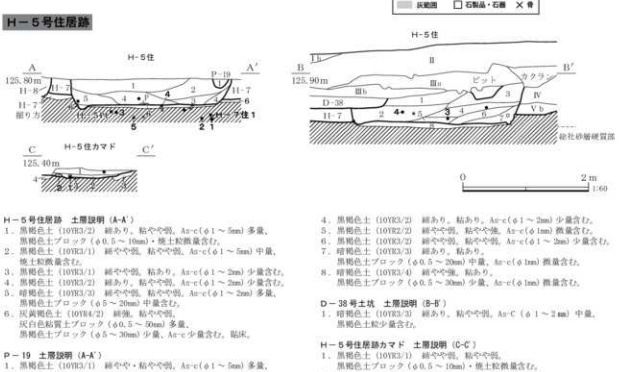
a．暗褐色土（10YR3/3）　締やや弱，粘やや弱，As-C（φ1～5mm）少量，
　黒褐色土ブロック（φ0.5～20mm）中量含む。
b．黒褐色土（10YR3/2）　締やや弱，粘やや弱，As-C（φ1～3mm）少量，
　黒褐色土ブロック（φ0.5～10mm）中量含む。

H－4号住居跡　土層説明（A-A'）

1．黒褐色土（10YR3/2）　締あり，粘やや弱，As-C（φ1～5mm）中量，
　黒褐色土ブロック（φ0.5～20mm）微量含む。
2．黒褐色土（10YR3/1）　締やや弱，粘やや弱，As-C（φ1mm）微量含む。
3．暗褐色土（10YR3/4）　締やや弱，粘やや弱，
　黒褐色土ブロック（φ0.5～30mm）中量，As-C（φ1～2mm）少量含む。
　床下土坑か，掘り方。

凡例
焼土範囲　土器　鉄津
炭範囲　瓦　鉄製品
　　石製品・石器　骨

H－5号住居跡



H－5号住居跡　土層説明（A-A'）

1．黒褐色土（10YR3/2）　締あり，粘やや弱，As-c（φ1～5mm）多量，
　黒褐色土ブロック（φ0.5～10mm）・焼土粒微量含む。
2．黒褐色土（10YR3/1）　締やや弱，粘やや弱，As-c（φ1～5mm）中量，
　焼土粒微量含む。
3．黒褐色土（10YR3/1）　締やや弱，粘あり，As-c（φ1～2mm）少量含む。
4．黒褐色土（10YR3/2）　締あり，粘やや弱，As-c（φ1～2mm）少量含む。
5．黒褐色土（10YR3/3）　締やや弱，粘やや弱，As-c（φ1～5mm）多量，
　黒褐色土ブロック（φ5～30mm）少量，As-c少量含む，貼床。

P－19　土層説明（A-A'）

1．黒褐色土（10YR3/1）　締やや・粘やや弱，As-c（φ1～5mm）多量，
　灰白色粘質土ブロック（φ5～50mm）多量。

H－5号住居跡　土層説明（B-B'）

1．黒褐色土（10YR3/2）　締やや弱，粘やや弱，As-c微量含む。
2．黒褐色土（10YR3/1）　締あり，粘やや弱，As-c（φ1～2mm）少量含む。
3．黒褐色土（10YR3/1）　締やや弱，粘やや弱，As-c（φ1～5mm）中量含む。
4．黒褐色土（10YR3/2）　締あり，粘あり，As-c（φ1～2mm）少量含む。
5．黒褐色土（10YR2/2）　締やや弱，粘やや強，As-c（φ1mm）微量含む。
6．黒褐色土（10YR3/2）　締やや弱，粘やや弱，As-c（φ1～2mm）少量含む。
7．暗褐色土（10YR3/3）　締あり，粘あり，
　黒褐色土ブロック（φ0.5～20mm）中量，As-c（φ1mm）微量含む。
8．暗褐色土（10YR3/4）　締やや弱，粘あり，
　黒褐色土ブロック（φ0.5～30mm）少量，As-c（φ1mm）微量含む。

D－38号土坑　土層説明（B-B'）

1．暗褐色土（10YR3/3）　締あり，粘やや弱，As-C（φ1～2mm）中量，
　黒褐色土粒少量含む。

H－5号住居跡カマド　土層説明（C-C'）

1．黒褐色土（10YR3/1）　締やや弱，粘やや弱，
　黒褐色土ブロック（φ0.5～10mm）・焼土粒微量含む。
2．黒褐色土（10YR3/2）　締あり，粘あり，焼土粒微量含む。
3．暗褐色土（10YR3/3）　締あり，粘やや弱，
　焼土粒ブロック（φ0.5～20mm）微量含む，掘り方。
4．灰黄褐色土（10YR4/2）　締強，粘やや弱，
　灰白色粘質土ブロック（φ0.5～50mm）多量，
　黒褐色土ブロック（φ0.5～30mm）少量，As-c少量含む，貼床。

H－6号住居跡①

H－6号住居跡　土層説明（A-A'）

5．黒褐色土（10YR3/4）　締あり，粘やや弱，As-C（φ1～2mm）中量，
　黒褐色土ブロック（φ5～30mm）多量含む，周堤帯崩落か。
6．黒褐色土（10YR3/2）　締やや弱，粘あり，As-C（φ1mm）微量，
　黒褐色土ブロック（φ5～20mm）中量含む。
12．灰黄褐色土（7.5YR4/2）　締やや強，粘あり，黒褐色土ブロック（φ5～
　30mm）多量含む，貼床。

D－30号土坑　土層説明（A-A'）

a．黒褐色土（10YR3/1）　締やや弱，粘やや弱，As-C（φ1～2mm）中量含む。
b．暗褐色土（10YR3/3）　締やや弱，粘あり，As-C（φ1mm）少量，
　黒褐色土ブロック（φ5～30mm）中量，焼土粒・炭化物粒微量含む。
c．暗褐色土（10YR3/4）　締やや弱，粘やや弱，As-C（φ1～2mm）少量，
　黒褐色土ブロック（φ5～30mm）中量含む。

D－31号土坑　土層説明（A-A'）

1．黒褐色土（10YR3/2）　締やや弱，粘やや弱，As-C（φ1～5mm）多量含む。
2．黒褐色土（10YR3/1）　締あり，粘やや弱，As-C（φ1～5mm）中量含む。
3．黒褐色土（10YR2/2）　締やや弱，粘やや弱，As-C（φ1～2mm）少量含む。

D－33号土坑　土層説明（A-A'）

A．黒褐色土（10YR3/1）　締あり，粘やや弱，As-C（φ1～3mm）多量含む。
B．黒褐色土（10YR3/2）　締やや弱，粘あり，As-C（φ1mm）少量，
　焼土粒・炭化物粒微量含む。
C．暗褐色土（10YR3/3）　締やや弱，粘あり，As-C（φ1mm）少量，
　黒褐色土ブロック（φ5～30mm）中量含む。

H－6号住居跡カマド・掘り方　土層説明（B-B'，C-C'，E-E'）

1．暗褐色土（10YR3/3）　締やや弱，粘やや弱，焼土粒少量，
　As-C（φ1mm）微量含む。
2．にぶい黄褐色土（10YR4/3）　締やや弱，粘やや弱，
　焼土ブロック（φ5～10mm）中量，灰ブロック状に少量含む。
3．黒褐色土（10YR3/1）　締やや弱，粘あり，焼土粒中量含む。
4．にぶい黄褐色土（10YR4/3）　締やや弱，粘やや強，焼土粒少量含む。
5．暗褐色土（10YR3/3）　締やや弱，粘やや強，焼土粒微量含む。
6．暗褐色土（10YR3/3）　締あり，粘やや弱，焼土粒少量含む。
7．灰黄褐色土（10YR4/2）　締あり，粘やや弱，
　焼土ブロック（φ5～20mm）多量，As-C（φ1～2mm）少量含む。
8．灰黄褐色土（10YR5/2）　締あり，粘あり，
　焼土ブロック（φ5～20mm）中量，As-C（φ1～2mm）少量含む。
9．暗褐色土（10YR3/3）　締やや弱，粘あり，灰中量（上面に集中），
　焼土粒微量含む。
10．灰黄褐色土（10YR4/2）　締やや弱，粘あり，
　黒褐色土ブロック（φ5～30mm）中量含む，上面に灰集中。
11．黒褐色土（10YR3/2）　締やや弱，粘あり，焼土粒微量，As-C少量含む，
　上面に灰集中，貼床。
12．暗褐色土（10YR3/3）　締あり，粘あり，地山か。

H－6号住居跡D1　土層説明（D-D'）

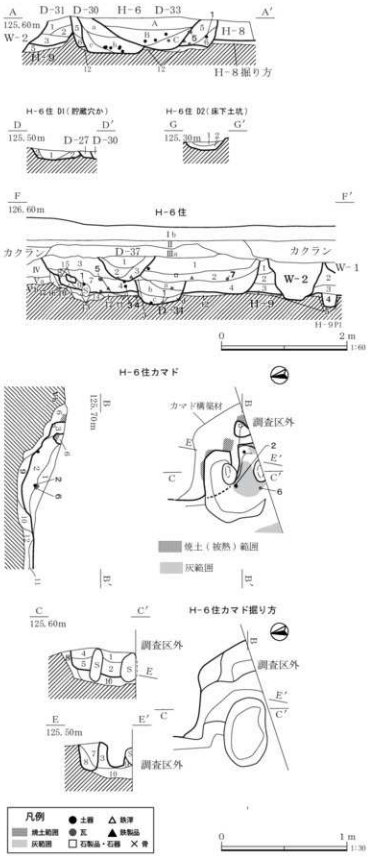
1．黒褐色土（10YR3/1）　締やや弱，粘あり，
　黒褐色土ブロック（φ5～10mm）少量，As-C（φ1～2mm）微量含む。
2．黒褐色土（10YR3/2）　締やや弱，粘あり，
　黒褐色土ブロック（φ5～10mm）中量含む。

D－27号土坑　土層説明（D-D'）

1．暗褐色土（10YR3/4）　締あり，粘あり，
　黒褐色土ブロック（φ5～20mm）中量含む。

Fig.10　遺構実測図３（H－５・６号住居跡）

H－6号住居跡②



D－30号土坑　土層説明（D-D'）

1．黒褐色土（10YR3/2）　締やや弱。粘あり。
　黒褐色土ブロック（φ5～10mm）少量、
　Au-C（φ1mm）微量含む。

H－6号住居跡　土層説明（F-F'）

1．黒褐色土（10YR3/2）　締あり。粘やや弱。
　Au-C（φ1～5mm）多量含む。
2．黒褐色土（10YR3/1）　締あり。粘やや弱。
　Au-C（φ1～5mm）中量含む。
3．黒褐色土（10YR3/2）　締あり。粘やや弱。
　Au-C（φ1～2mm）・黒褐色土ブロック（φ5～10mm）
　少量含む。
4．黒褐色土（10YR3/1）　締やや弱。粘やや弱。
　Au-C（φ1mm）微量、黒褐色土ブロック（φ5～20mm）
　中量、焼土粒微量含む。
7．暗褐色土（10YR3/3）　締あり。粘やや弱。
　黒褐色土ブロック（φ5～20mm）中量含む。
8．黒褐色土（10YR3/2）　締やや強。粘やや弱。
　Au-C（φ1～2mm）中量、焼土粒微量含む。
9．黒褐色土（10YR3/1）　締やや弱。粘あり。
　Au-C（φ1mm）・黒褐色土ブロック（φ5～10mm）少量
　含む。
10．灰褐色土（7.5YR5/2）　締やや弱。粘あり。
　焼土粒・ブロック（φ5～30mm）中量含む。
11．褐灰色土（7.5YR4/1）　締弱。粘あり。
　灰大量（主体）、黒褐色土ブロック（φ5～10mm）
　少量含む。灰層。
12．灰黄褐色土（7.5YR4/2）　締やや強。粘あり。
　黒褐色土ブロック（φ5～30mm）多量含む。貼床。
13．灰黄褐色土（7.5YR4/2）　締あり。粘あり。
　焼土粒少量含む。上面に灰集中。
14．暗褐色土（7.5YR3/3）　締あり。粘あり。焼土粒微量
　含む。
15．灰黄褐色土（7.5YR4/2）　締やや強。粘あり。
　焼土ブロック（φ5～20mm）中量、Au-C（φ1mm）
　少量含む。
16．灰黄褐色土（7.5YR5/2）　締あり。粘あり。
　焼土粒少量含む。
17．灰黄褐色土（7.5YR4/2）　締あり。粘あり。
　焼土粒少量含む。
※5・6層はA-A'にあり。

H－9号住居跡　土層説明（F-F'）

1．黒褐色土（10YR3/2）　締あり。粘やや弱。
　Au-C（φ1mm）多量含む。
2．黒褐色土（10YR3/1）　締あり。粘やや弱。
　Au-C（φ1mm）中量含む。
3．暗褐色土（10YR3/3）　締あり。粘やや弱。
　黒褐色ブロック（φ5～10mm）中量、
　Au-C（φ1mm）少量、焼土粒微量含む。
4．灰黄褐色土（10YR4/2）　締やや強。粘やや強。
　黒褐色土粒中量、黒褐色土ブロック（φ5～
　10mm）少量含む。H－9住P1覆土。
5．灰黄褐色土（10YR4/2）　締やや強。粘やや弱。
　黒褐色土ブロック（φ5～20mm）多量、
　Au-C（φ1mm）少量含む。貼床。※k-k'にもあり。

D－34号土坑　土層説明（F-F'）

a．黒褐色土（10YR2/2）　締やや弱。粘やや弱。
　Au-C（φ1mm）・黒褐色土ブロック（φ5～10mm）少量
　含む。
b．灰黄褐色土（10YR4/2）　締やや弱。粘あり。
　黒褐色土ブロック（φ5～20mm）中量、Au-C・
　焼土粒微量含む。
c．暗褐色土（10YR3/3）　締やや弱。粘あり。
　黒褐色土ブロック（φ5～30mm）・灰・
　炭化物ブロック（φ5～20mm）中量、
　焼土粒・Au-C（φ1mm）微量含む。
d．灰黄褐色土（10YR4/2）　締あり。粘あり。焼土粒微量
　含む。

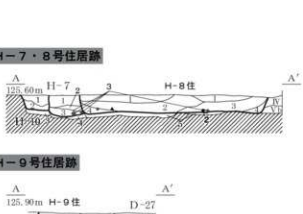
D－37号土坑　土層説明（F-F'）

1．黒褐色土（10YR2/2）　締やや弱。粘あり。
　Au-C（φ1mm）少量含む。
2．黒褐色土（10YR2/3）　締やや弱。粘あり。
　Au-C（φ1mm）微量含む。
3．黒褐色土（10YR3/2）　締あり。粘やや弱。
　Au-C（φ1mm）少量含む。

H－6号住居跡D2　土層説明（G-G'）

1．黒褐色土（10YR3/2）　締やや弱。粘やや弱。黒褐色土ブ
　ロック（φ5～20mm）少量含む。
2．暗褐色土（10YR3/4）　締あり。粘やや弱。黒褐色土ブロッ
　ク（φ5～20mm）中量、Au-C（φ1mm）微量含む。

Fig.11　遺構実測図４（H－６号住居跡）



H－10 号住居跡　土層説明（A-A'）
1．黒褐色土（10YR2/2）締まり強。粘やや弱。As-C(φ1～5mm) 多量含む。
2．黒褐色土（10YR3/1）締まり。粘やや弱。As-C(φ1mm) 微量含む。
3．黒褐色土（10YR3/2）締まり。粘やや弱。As-C(φ1～3mm) 少量。黒褐色土ブロック（φ0.5～10mm）中量含む。
4．黒褐色土（10YR3/2）締まり強。粘やや弱。As-C(φ1mm) 少量。黒褐色土ブロック（φ0.5～10mm）中量含む。貼床。

H－8 号住居跡　土層説明（A-A'）
1．黒褐色土（10YR3/1）締まり。粘やや弱。As-C(φ1～5mm) 多量含む。
2．黒褐色土（10YR3/2）締まり。粘あり。As-C(φ1～3mm)・黒褐色土ブロック（φ0.5～20mm）少量含む。
3．暗褐色土（10YR3/3）締やや弱。粘あり。黒褐色土ブロック（φ0.5～50mm）中量。As-C(φ1～3mm) 少量含む。
4．黒褐色土（10YR2/2）締やや弱。粘あり。
5．黒褐色土（10YR3/2）締やや強。粘やや弱。As-C(φ1～3mm) 中量含む。粗り方。

H－7 号住居跡　土層説明（H－8 住 A-A'）
1．暗褐色土（10YR3/3）締やや弱。粘やや弱。As-C(φ1～3mm) 少量含む。
2．黒褐色土（10YR3/1）締やや弱。粘やや弱。
3．暗褐色土（10YR3/4）締まり。粘あり。
4．暗褐色土（10YR3/3）締まり。粘あり。粗り方。

H－10 号住居跡　土層説明（H－8 住 A-A'）
1．黒褐色土（10YR3/1）締まり。粘やや弱。As-C(φ1～2mm) 中量含む。
2．黒褐色土（10YR3/2）締やや弱。粘やや弱。As-C(φ1mm) 微量含む。
3．黒褐色土（10YR3/1）締まり。粘やや弱。As-C(φ1mm) 少量含む。粗り方。

H－9 号住居跡　土層説明（A-A'）
1．黒褐色土（10YR3/1）締まり。粘やや弱。As-C(φ1～5mm) 多量。黒褐色ブロック（φ0.5～10mm）微量含む。
2．暗褐色土（10YR3/3）締まり。粘やや弱。As-C(φ1～3mm) 少量。黒褐色土ブロック（φ0.5～20mm）中量含む。
3．黒褐色土（10YR3/2）締やや弱。粘やや弱。As-C(φ1～2mm) 中量含む。
4．灰黄褐色土（10YR4/2）締やや強。粘やや弱。黒褐色土ブロック（φ5～20mm）多量。As-C(φ1mm) 少量含む。貼床。

D－27 号土坑　土層説明（H－9 住 A-A'）
1．黒褐色土（10YR3/2）締まり。粘やや弱。As-C(φ1～2mm) 中量含む。
2．黒褐色土（10YR3/2）締まり。粘あり。As-C(φ1～3mm) 微量含む。
3．暗褐色土（10YR3/3）締やや弱。粘あり。黒褐色土ブロック（φ0.5～20mm）少量含む。

Fig. 12　遺構実測図 5（H－7～10 号住居跡）

Tab. 7　中世瓦重量計測表（単位：g）

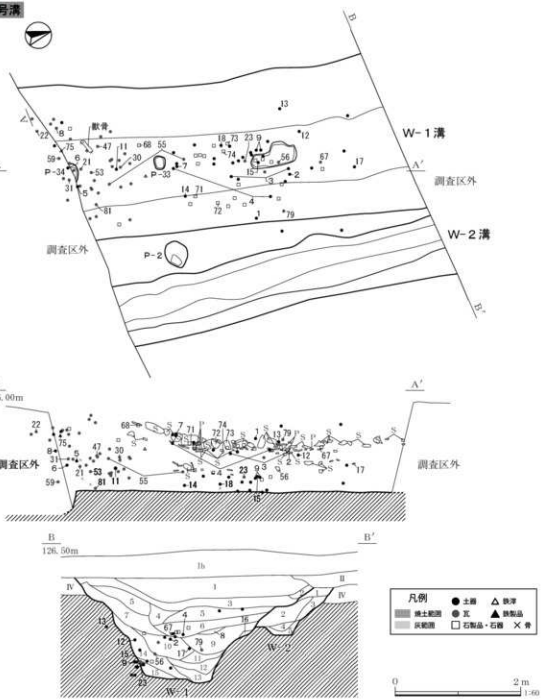
遺構	軒丸瓦	軒平瓦	丸瓦	平瓦	道具瓦	鬼瓦	鯱瓦	不明瓦
W－1 溝	1562.14	455.14	11514.8	9002.62	692.21	2185.34	164.68	1
W－2 溝			188.2	296.09				
D－6 土			54	269				
合計	1562.14	455.14	11687	9327.71	692.21	2185.34	164.68	1

Tab. 8　非実測鉄滓・鉄製品計測表

番号	遺構名	種　類	磁着	法量（長さ，幅，厚さ，重さ）cm・g	備　考	注　記
1	H－2 住	鉄滓	○	長さ：5.7，幅：3.3，厚さ：2.0，重さ：31	砂付着。	H2No. 1
2	H－3 住	鉄滓	×	長さ：5.5，幅：3.85，厚さ：2.9，重さ：4.3	ガラス質化。	H3
3	H－5 住	鉄滓	○	長さ：7.8，幅：6.1，厚さ：3.2，重さ：147	梅形鍛冶滓，砂付着。	H5No. 1
4	H－5 住	輪羽口	△	長さ：5.55，幅：3.9，厚さ：3.1，重さ：36	磁着は鉄滓付着部分。スサ含む。一部ガラス質化。	H5No. 8
5	H－6 住	鉄滓	△	長さ：6.2，幅：5.6，厚さ：3.1，重さ：69	梅形鍛冶滓。	H6No. 2
6	H－6 住	鉄滓	△	長さ：4.0，幅：3.3，厚さ：1.4，重さ：16	砂付着。	H6No. 6
7	H－6 住	鉄滓	○	長さ：4.7，幅：3.65，厚さ：2.5，重さ：42	砂付着。	H6No. 10
8	H－6 住	鉄滓	○	長さ：4.0，幅：2.6，厚さ：1.4，重さ：11	砂付着。	H6
9	H－7 住	鉄滓	○	長さ：6.8，幅：3.75，厚さ：2.65，重さ：101	砂付着。スサ痕跡あり。	H7No. 9
10	W－1 溝	鉄滓	△	長さ：4.6，幅：4.35，厚さ：2.6，重さ：38.96	砂付着。	W1No. 37
11	W－1 溝	鉄滓	○	長さ：5.1，幅：4.4，厚さ：1.8，重さ：39.82	砂付着。	W1No. 59
12	W－1 溝	鉄滓	○	長さ：2.4，幅：1.35，厚さ：1.0，重さ：1.97	粒状。	W1 上層
13	W－1 溝	鉄滓	○	長さ：5.6，幅：6.4，厚さ：3.0，重さ：72.43	梅形鍛冶滓，砂付着。	W1 下層
14a	W－1 溝	鉄滓	○	長さ：4.55，幅：3.1，厚さ：2.0，重さ：15.51		W1
14b	W－1 溝	鉄滓	○	長さ：2.3，幅：1.28，厚さ：1.15，重さ：2.35		W1
14c	W－1 溝	鉄滓	○	長さ：1.1，幅：1.0，厚さ：0.8，重さ：0.65		W1
15	調査区	鉄滓	△	長さ：2.9，幅：2.8，厚さ：1.2，重さ：5.94		調査区
16	調査区	鉄製品	○	長さ：3.5，幅：2.0，厚さ：1.5，重さ：5.23	釘か。	調査区
17	調査区	鉄製品	○	長さ：2.75，幅：2.3，厚さ：1.4，重さ：7	板状。	調査区
18	D－4 土	鉄製品	○	長さ：2.1，幅：1.6，厚さ：0.7，重さ：2.05	釘。	D4
19	D－4 土	鉄製品	○	長さ：2.8，幅：2.6，厚さ：0.9，重さ：3.72	釘。	D4
20	調査区	鉄製品	○	長さ：3.4，幅：2.3，厚さ：1.0，重さ：4	釘か。	調査区

磁着者は○＝強い　△＝弱い　×＝なし

W－1・2号溝



W－1号溝　土層説明（B-B′）

1．灰黄褐色土（10YR4/2）　締やや強、粘弱。Au-B多量含む。
2．灰黄褐色土（10YR4/2）　締あり、粘やや弱、Au-B少量含む。
3．にぶい黄褐色土（10YR5/3）　締やや強、粘弱。Au-B中量含む。
4．褐灰色土（10YR4/1）　締やや弱、粘やや弱、Au-B中量含む。
5．灰黄褐色土（10YR4/2）　締あり。粘弱。Au-B・Au-C多量含む。
6．褐灰色土（10YR4/1）　締あり、粘やや弱。Au-B少量含む。中世土器・瓦を含含。
7．灰黄褐色土（10YR4/2）　締あり、粘やや弱、Au-B・Au-C少量含む。
8．灰白色土（10YR7/1）　締やや弱、粘やや弱、シルト質土、ラミナはなし。
9．褐灰色土（10YR4/1）　締やや弱、粘やや弱、Au-B少量含む。
10．灰黄褐色土（10YR4/2）　締やや弱、粘やや弱。Au-B・Au-C中量、炭化物粒数量含む。
11．灰黄褐色土（10YR4/2）　締やや弱、粘やや弱。Au-B少量含む。
12．暗褐色土（10YR3/3）　締やや弱、粘やや弱、Au-B少量含む。
13．灰黄褐色土（10YR4/2）　締やや弱、粘やや弱。
黒褐色土ブロック（φ0.5～10mm）中量、Au-B少量含む。
14．暗褐色土（10YR3/4）　締やや弱、粘やや弱。
黒褐色土ブロック（φ0.5～30mm）中量、Au-B微量含む。
15．灰黄褐色土（10YR4/2）　締やや弱、粘やや弱。
黒褐色土ブロック（φ0.5～10mm）多量、Au-B微量含む。
16．にぶい黄褐色土（10YR5/4）　締やや強、粘やや弱。

W－2号溝　土層説明（B-B′）

1．黒褐色土（10YR3/1）　締やや弱、粘弱。Au-B多量含む。
2．暗褐色土（10YR3/3）　締やや弱、粘弱。Au-B多量含む。
3．黒褐色土（10YR3/2）　締やや弱、粘やや弱。Au-B中量含む。
4．黒褐色土（10YR3/1）　締やや弱、粘やや弱。Au-B中量含む。
5．灰黄褐色土（10YR4/2）　締やや強、粘やや弱。Au-B少量、
黒褐色土ブロック（φ0.5～10mm）中量含む。

Fig.13　遺構実測図６（W－１・２号溝）

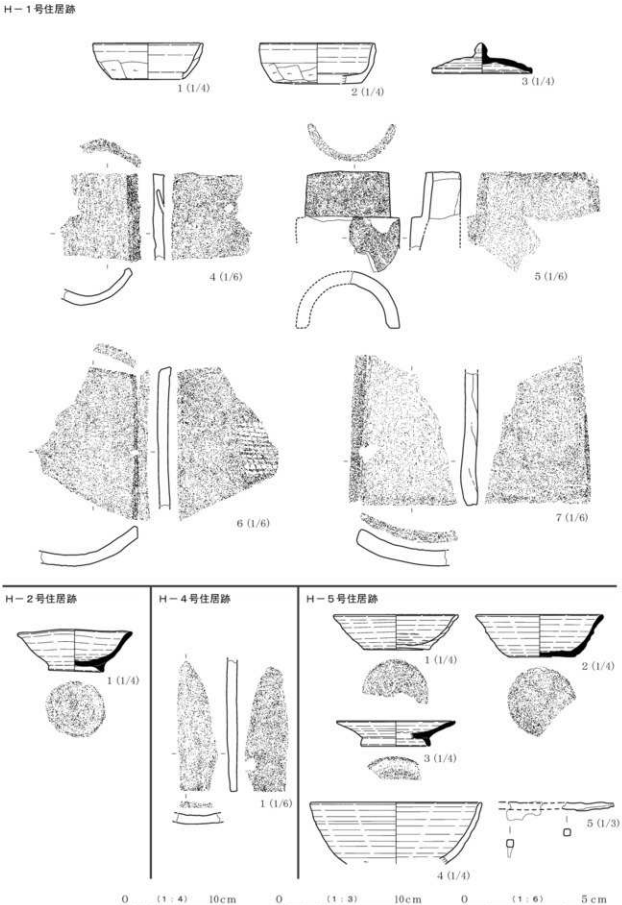


Fig.14　遺物実測図１（H－１・２・４・５号住居跡）

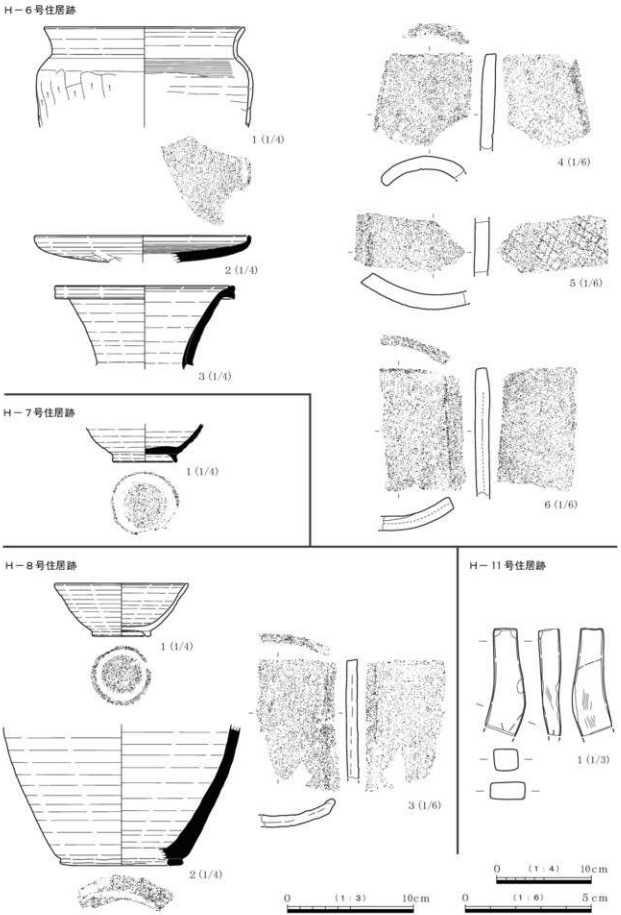


Fig. 15　遺物実測図２（H－６～８・11号住居跡）

W－１号溝 (1)

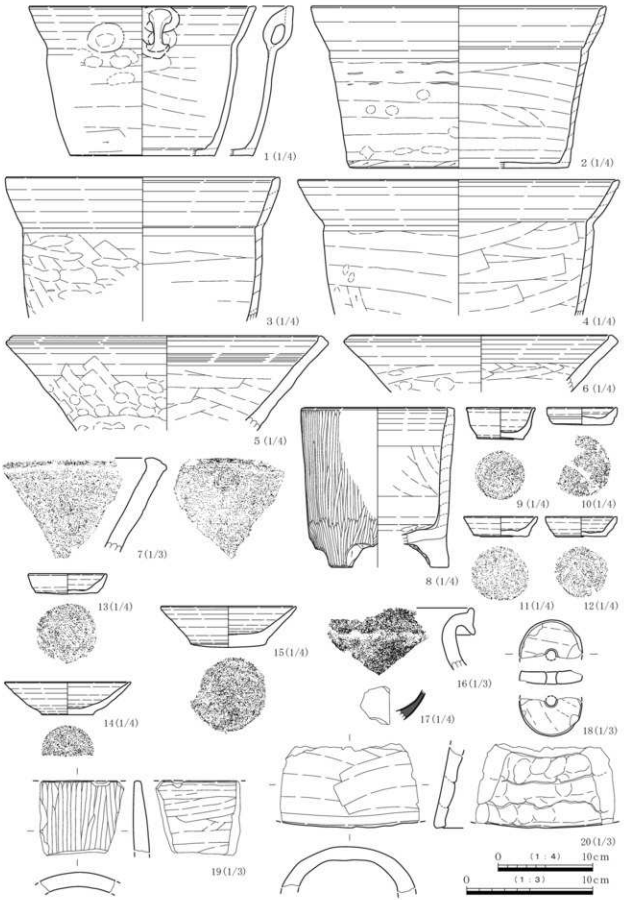


Fig.16　遺物実測図３（W－１号溝：中世土器・土製品）

W－1号溝 (2)

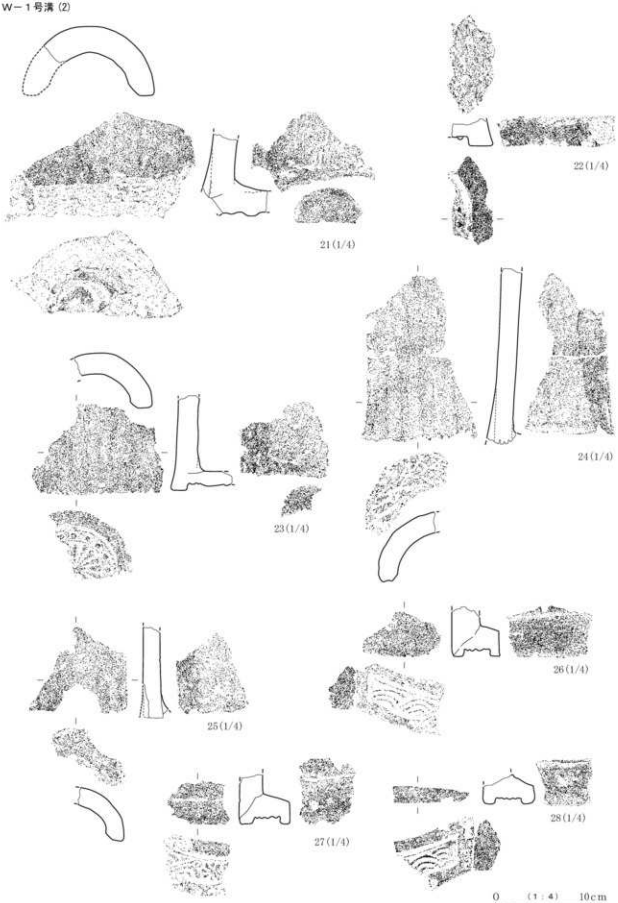


Fig. 17 遺物実測図4 (W－1号溝：中世軒瓦)

W－1号溝 (3)

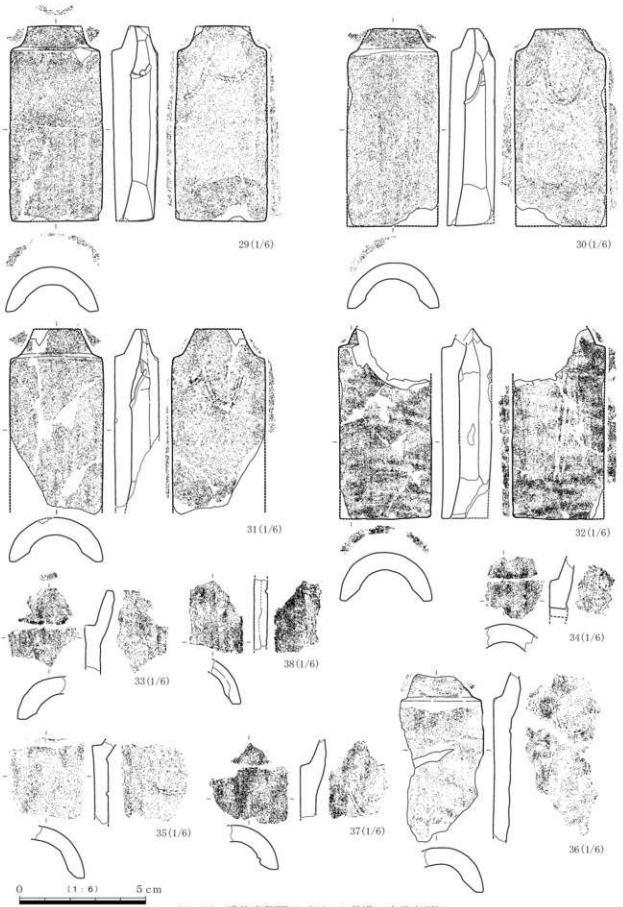


Fig. 18　遺物実測図５（W－１号溝：中世丸瓦）

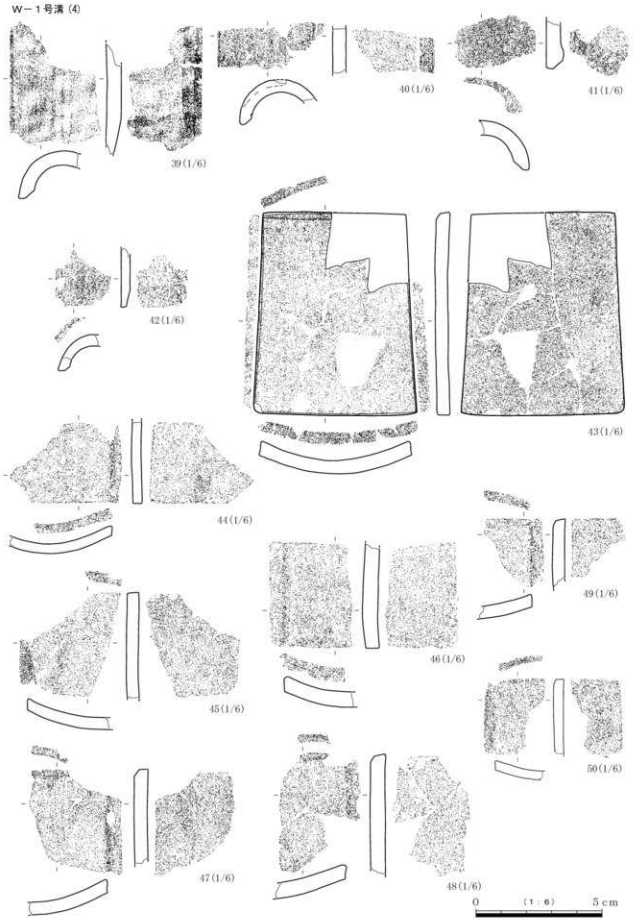


Fig. 19　遺物実測図６（W－１号溝：中世丸瓦・平瓦・道具瓦）

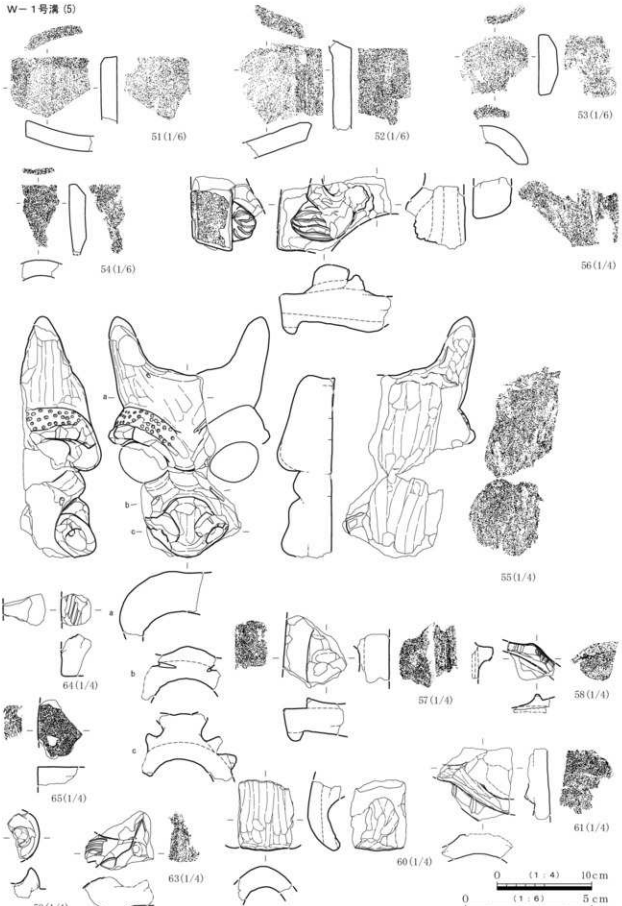


Fig. 20　遺物実測図７（W－１号溝：中世平瓦・道具瓦・鬼瓦）

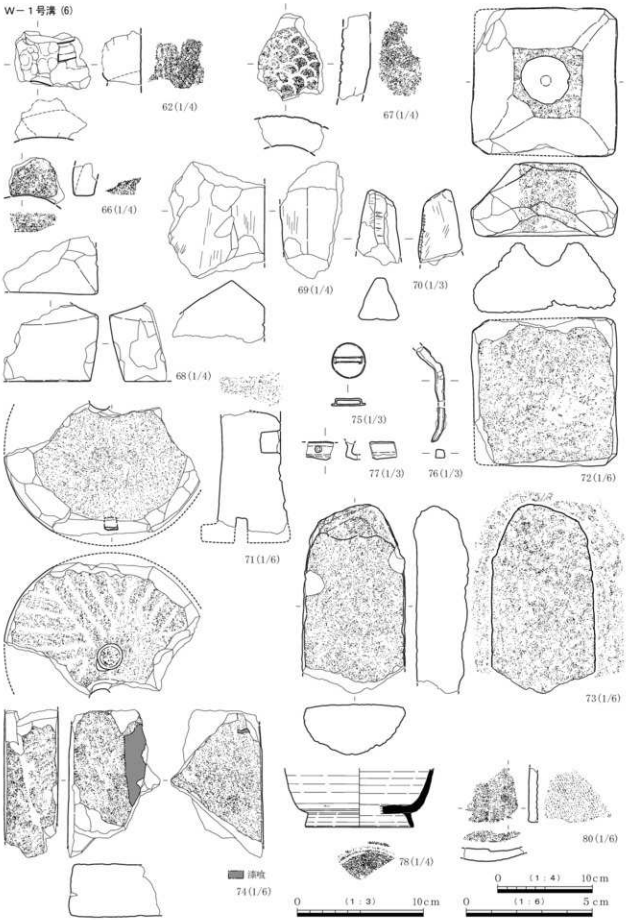


Fig.21　遺物実測図８（W－１号溝：中世鬼瓦・鯱瓦・石製品・鉄製品・銅製品、古代土器・瓦）

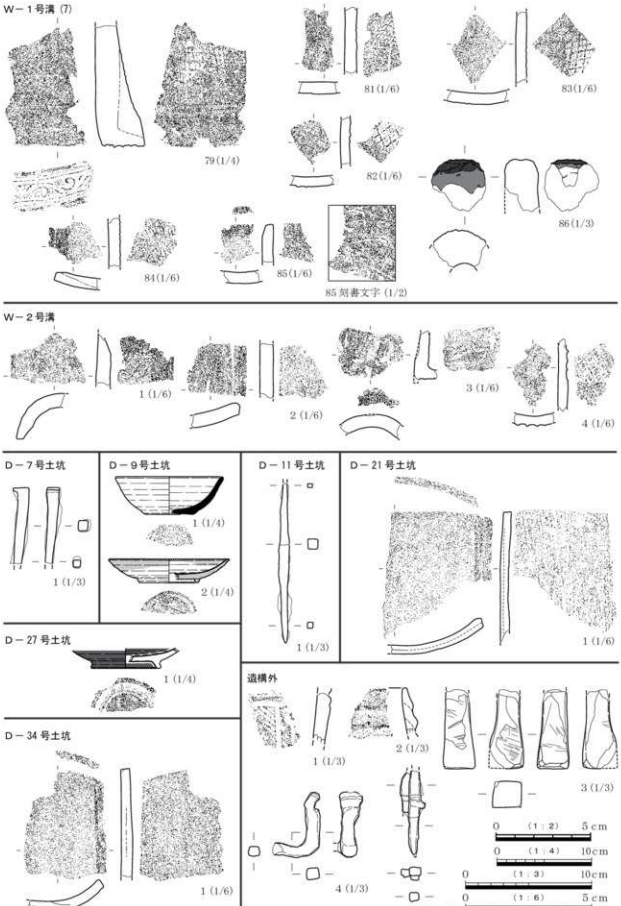


Fig. 22　遺物実測図９（W－１号溝；古代瓦・土製品、W－２号溝、D－７・９・11・21・27・34号土坑、遺構外）

Tab.9　出土遺物観察表（１）

計測値（cm・g）

遺構名	No.	器種	A－出象、B－成形、C－整形・調整、D－胎土・材質、E－色調、F－残存度、G－備考、H－出土層位・位置
H－1住	1	土師器坏	A：口径（11.4）、器高3.8、底径（7.6）、B：粘土紐積み上げ、C：外：口縁部ヨコナデ、体部ナデ→ケズリ、内：口縁部～体部ヨコナデ、D：砂色粒、白色粒、E：外内：橙色、F：口縁部1/2弱、H：No12・18
	2	土師器坏	A：口径（12.0）、器高4.3、底径（9.4）、B：粘土紐積み上げ、C：外：口縁部ヨコナデ、体部ナデ→ケズリ、底部ケズリ、内：口縁部～体部ヨコナデ、底部ナデ、D：砂色粒、白色粒、石英粒、E：内外：にぶい橙色、F：口縁部1/5、G：口縁部外面に黒斑あり、H：No20
	3	須恵器蓋	A：口径（10.4）、器高3.2、摘み部径1.3、B：ロクロ整形、摘み部貼付け、C：外：摘み部回転ナデ、天井部回転ヘラケズリ、口縁部回転ナデ、内面：回転ナデ、D：白色粒、黒色粒、E：内外：灰色、F：1/2、G：還元焼成、H：No6
	4	平瓦	A：残長14.1、残幅10.7、最大厚1.6、重さ76.00、B：一枚作り、C：凹：布目圧痕、凸：叩き（平行叩き目）、側・端：ヘラ切り→ナデ、D：砂色粒、白色粒、石英粒、E：凹凸：灰黄色、F：1/6、G：釘穴圧跡が二穿孔、H：No19
	5	丸瓦	A：残長16.0、残幅7.8、最大厚2.1、重さ639.18、B：円柱状の木骨に粘土貼付け、C：凹：布目圧痕、一側縁部ヘラ切り、上端縁ナデ、凸：縄目叩き→ヨコナデ、玉縁：ヨコナデ、側・端：ヘラ切り、D：砂色粒、白色粒、石英粒、E：凹凸：灰色、F：3/8、H：Ｎo7、17、カマド2
	6	平瓦	A：残長25.0、残幅15.3、最大厚1.7、重さ765.59、B：一枚作り、C：凹：布目圧痕、端縁：ヘラ切り、凸：叩き→ヘラナデ→型押文（斜格子）、側・端面：ヘラ切り、D：白色粒、黒色粒、E：凹凸：灰色、F：1/4、G：凹凸面に赤切り痕を残す、H：No5・16
	7	平瓦	A：残長24.2、残幅16.3、最大厚2.4、重さ1221.36、B：一枚作り、C：凹：布目圧痕、上端縁：ケズリ→ナデ、凸：ヨコナデ→部分的に縄目叩き、側・端面：ヘラ切り、D：砂色粒、白色粒、片岩粒、雲母粒、E：凹凸：灰黄褐色、F：1/4、G：凹面の布目圧痕下に赤切り痕あり、H：No8
H－2住	1	須恵器高台付坏	A：口径11.9、器高4.5、高台部径5.9、B：粘土紐積み上げ→ロクロ整形、高台部貼付け、C：外：口縁部～高台部外面回転ナデ、底部回転糸切り、内面：回転ナデ、D：白色粒、小石、E：内外：灰色、F：4/5、G：還元焼成、H：No5
H－4住	1	平瓦	A：残長20.8、残幅6.8、最大厚1.6、重さ302.49、B：一枚作り、C：凹：布目圧痕、端縁ナデ、凸：布目圧痕→縄目叩き→ナデ、端：布目圧痕、D：砂色粒、白色粒、雲母粒、E：凹：黒色、凸：暗灰色、F：破片、G：凹面に赤切り痕を残す、H：No2
H－5住	1	須恵器坏	A：口径13.0、器高3.7、底径6.9、B：粘土紐積み上げ→ロクロ整形、C：外：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り、内：口縁部～底部回転ナデ、D：赤褐色粒、白色粒、石英粒、E：外：にぶい黄橙色、内：にぶい橙色、F：1/2、G：酸化焼成、内外面黒斑あり、体部外面煤付着、H：No18、カマド
	2	須恵器坏	A：口径（13.2）、器高4.5、底径7.0、B：粘土紐積み上げ→ロクロ整形、C：外：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り、内：口縁部～底部回転ナデ、D：白色粒、黒色粒、E：外内：灰白色、F：1/2、G：還元焼成、内外面に重ね焼きによる変色あり、H：No19
	3	須恵器高台付皿	A：口径（12.4）、器高2.7、高台径（7.0）、B：ロクロ整形、高台部貼付け、C：外：口縁部～高台部回転ナデ、底部回転糸切り、内：口縁部～底部回転ナデ、D：白色粒、黒色粒、E：外内：灰色、F：高台部1/4、G：還元焼成、H：M5 住
	4	須恵器瓶	A：口径（18.0）、残高6.5、B：粘土紐積み上げ→ロクロ整形、C：外：口縁部～体部回転ナデ→体部下端回転ヘラケズリ、内：口縁部～体部回転ナデ、D：砂色粒、白色粒、石英粒、E：外：にぶい橙色、内：淡黄橙色、F：口縁部1/6、G：還元不良、外面被熱、H：No4
	5	棒状鉄製品	A：鉄さ～、幅0.6、厚さ0.5、重さ6.21、B：鍛造、C：断面四角形、D：鉄製、F：破片、H：No14
H－6住	1	土師器甕	A：口径（21.0）、残高10.6、B：粘土紐積み上げ、C：外：口縁部ヨコナデ、胴部ナデ→ケズリ、内：口縁部ヨコナデ、胴部上半ハケ→ヘラナデ、D：砂色粒、白色粒、E：外内：淡黄橙色、F：口縁部1/4、G：外面と口縁部内面煤付着、H：No2
	2	須恵器高坏	A：口径（22.4）、残高2.8、B：粘土紐積み上げ→ロクロ整形、C：外：口縁部回転ナデ、体部回転ナデ→不定方向のヘラナデ、内：口縁部ヨコナデ、体部カキメ、D：白色粒、黒色粒、E：外内：灰色、F：体部1/6、G：還元焼成、H：No13
	3	須恵器壺	A：口径（18.8）、残高8.8、B：粘土紐積み上げ→ロクロ整形、C：外内：口縁部回転ナデ、D：砂色粒、白色粒、石英粒、雲母粒、E：外内：灰黄色、F：口縁部1/4、G：還元焼成、H：No5
	4	須具瓦	A：残長15.3、残幅13.1、最大厚2.1、重さ610.33、B：一枚作り、C：凹：布目圧痕、側縁：ヘラ切り→ナデ、凸：叩き→ナデ、側・端：ヘラ切り、D：砂色粒、白色粒、石英粒、雲母粒、E：凹：暗赤褐色、凸：明赤褐色、F：1/4、G：凹面に赤切り痕を残す、H：No19
	5	平瓦	A：残長8.7、残幅17.0、最大厚2.4、重さ515.24、B：一枚作り、C：凹：一定方向のヘラナデ、凸：斜格子目叩き、側：ヘラ切り、D：砂色粒、白色粒、石英粒、E：凹：にぶい黄橙色、凸：淡黄橙色、F：破片、H：No14
	6	平瓦	A：残長20.2、残幅11.6、最大厚2.3、重さ828.28、B：粘土板張り作り、C：凹：布目圧痕→一部ナデ、凸：叩き→ナデ、側・端：ヘラ切り→ナデ、D：白色粒、石英粒、E：凹：暗灰色、凸：灰色、F：1/4、G：凹面に赤切り痕を残す、H：No20
H－7住	1	須恵器高台付坏	A：残高4.0、高台部径6.8、B：粘土紐積み上げ→ロクロ整形、高台部貼付け、C：外：体部～高台部回転ナデ、底部回転糸切り、内：体部～底部回転ナデ、D：砂色粒、白色粒、E：外内：灰色、F：体部1/2、G：還元不良、H：M7b4、H3b6?・16・カマド
H－8住	1	須恵器高台付皿	A：口径（14.0）、器高3.6、高台部径6.2、B：ろくろ成形、高台部貼付け、C：外：口縁部～高台部回転ナデ、底部回転糸切り、内：口縁部～底部回転ナデ、D：砂色粒、白色粒、石英粒、E：外内：明赤褐色、F：口縁部1/4、G：酸化焼成、H：M9
	2	須恵器高台付皿	A：残高14.9、高台部径（13.0）、B：粘土紐積み上げ→ロクロ整形、高台部貼付け、C：外内：胴部～底部回転ナデ、D：白色粒、黒色粒、E：外：オリーブ灰色、内灰色、F：高台部1/4、G：胴部外面に降灰による自然釉が掛かる、H：No6
	3	平瓦	A：残長21.0、残幅11.7、最大厚1.8、重さ627.40、B：合せ一枚作り、C：凹：布目圧痕、凸：縄目（L）叩→ナデ、側：ヘラ切り→ナデ、端：ヘラ切り、D：砂色粒、白色粒、E：凹凸：灰白色、F：1/4、G：凹面に赤切り痕を残す、H：No2、4、5、7
H－11住	1	底石	A：残長8.5、最大幅2.8、最大厚1.7、重さ56.27、B：断面を長方形に加工、C：各面とも研磨、D：泥岩、E：褐灰色、F：先端部欠損、G：表面に擦痕による条線あり、H：調査区No1
W－1溝	1	内耳鍋	A：口径（23.8）、器高15.8、底径（15.2）、B：粘土紐積み上げ、内耳貼付け、C：外：口縁部回転ナデ、胴部ナデ→下端ケズリ、底部未調整（圧痕痕）、内：口縁部回転ナデ、胴部ヘラナデ、D：白色粒、石英粒、E：外内：明赤褐色、F：口縁部1/4、G：外面煤付着、H：No3
	2	内耳鍋	A：口径（31.0）、器高17.1、底径（23.0）、B：粘土紐積み上げ、C：外：口縁部回転ナデ、胴部ナデ→下端ケズリ、底部未調整（圧痕痕）、内：口縁部回転ナデ、胴部ヘラナデ、底部ナデ、D：砂色粒、白色粒、石英粒、E：外内：暗灰黄色、F：1/4、G：胴部外面に煤付着、H：上層、確認下
	3	内耳鍋	A：口径（28.8）、残高5.2、B：粘土紐積み上げ、C：外：口縁部回転ナデ、胴部ユビオサエ→ヘラナデ、内：口縁部回転ナデ、胴部ヘラナデ、D：白色粒、黒色粒、E：外内：灰色、F：口縁部1/4、H：No36・40・確認下
	4	内耳鍋	A：口径（33.8）、残高14.3、B：粘土紐積み上げ、C：外：口縁部回転ナデ、胴部ユビオサエ→ヘラナデ、内：口縁部回転ナデ、胴部ヘラナデ、D：白色粒、黒色粒、石英粒、E：外内：灰色、F：口縁部1/4、G：口縁部は歪んでいる、H：No27・29・確認下
	5	在地産片口鉢	A：口径（30.6）、残高10.0、B：粘土紐積み上げ、C：外：口縁部ナデ、体部ユビオサエ→ナデ、内：口縁部回転ナデ、体部ヘラナデ、D：白色粒、黒色粒、E：外・区黄色、内：上半～灰色・下半～灰白色、F：体部1/4、G：体部内面は良く磨れている、H：No84
	6	在地産片口鉢	A：口径（27.4）、残高6.0、B：粘土紐積み上げ、C：外：口縁部回転ナデ、体部ユビオサエ→ナデ、内：口縁部回転ナデ、体部ヘラナデ、D：白色粒、黒色粒、E：外内：灰色、F：口縁部1/4、G：体部内面は良く磨れている、H：No102
	7	火鉢	A：残高7.4、B：粘土紐積み上げ、C：外：口縁部～体部回転ナデ、内：口縁部～体部回転ナデ→押印文（雪文）、D：砂色粒、白色粒、石英粒、E：外：黄灰色、内：暗灰色、F：口縁部破片、G：口縁部破片は荒れている、外面煤付着、H：No7
	8	蓋鉢	A：口径（14.6）、器高16.9、底径（14.5）、足高2.5、B：粘土紐積み上げ、足貼付け、C：外：口縁部回転ナデ→ミガキ、体部～脚部ナデ→ミガキ、足側面ケズリ、底部ケズリ、内：口縁部回転ナデ、体部～ケズリ、底部回転ナデ、D：白色粒、E：外：黒色、内：暗灰色、F：1/4、G：口縁部・底部の一部に被熱痕、H：No91
	9	小形坏	A：口径6.0、器高2.8、底径4.0、B：ロクロ、C：外：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り、内：口縁部～底部回転ナデ、D：赤褐色粒、白色粒、E：外内：橙色、F：ほぼ完形、H：No46・48
	10	かわらけ（柳明里）	A：口径7.2、器高1.9、底径6.2、B：ロクロ、C：外：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り→ナデ、内：口縁部～底部回転ナデ、D：白色粒、E：外内：灰白色、F：2/3、G：口縁部と体部の境に沈線状の段が認る、H：確認下、
	11	かわらけ（柳明里）	A：口径7.7、器高2.1、底径5.7、B：ロクロ、C：外：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り→ナデ、内：口縁部～底部回転ナデ、D：白色粒、E：外内：淡黄橙色、F：5/6、G：口縁部の3ヵ所に油煙付着、H：No68
	12	かわらけ（柳明里）	A：口径7.4、器高2.1、底径5.3、B：ロクロ、C：外：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り→ナデ、内：口縁部～底部回転ナデ、D：砂色粒、白色粒、E：外内：にぶい黄橙色、F：ほぼ完形、G：口縁部の3ヵ所に油煙付着、H：No28

Tab. 10　出土遺物観察表（2）

計側値(cm・g)

遺構名	No.	器種	A－法量、B－成形、C－整形・調整、D－粘土・材質、E－色調、F－焼存度、G－備考、H－出土場位・位置
W－1 溝	13	かわらけ（根明皿）	A．口径 8.2、器高 0.6、底径 6.4、B．ロクロ、C．外：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り→ナデ、内：口縁部～底部回転ナデ、D．砂色粒、白色粒、E．外内：にぶい黄橙色、F．4/5、G．口唇部のタッチ所に油煙付着、底部外面に平行条痕状の圧痕、H．No4
	14	かわらけ	A．口径 (13.2)、器高 3.5、底径 5.4、B．ロクロ、C．外：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り、内：口縁部～底部回転ナデ、D．砂色粒、白色粒、輝石、E．外内：淺黄橙色、F．1/3、H．No49、下層
	15	かわらけ	A．口径 (14.2)、器高 4.3、底径 7.8、B．ロクロ、C．外：口縁部～体部回転ナデ、底部回転糸切り、内：口縁部～底部回転ナデ、D．砂色粒、白色粒、E．外内：淺黄橙色、F．1/2、H．No47、下層
	16	常滑窯系壺	A．残高 4.9、B．粘土帯積み上げ→叩き、C．外内：口縁部ヨコナデ、D．黒色粒、白色粒、E．外内：暗赤褐色、F．口縁部破片、G．口縁部外面に淡緑色の自然釉がかかる、7 型式（14 世紀前半）、H．上層
	17	青磁鎬蓮弁文碗	A．残高 3.1、B．ロクロ、C．外内：体部回転ナデ→施釉（淡緑色）、D．白色粒、E．外内：淡緑色、F．体部破片、H．No34
	18	砥礎車	A．直径 5.5、厚さ 1.0、孔径 0.8、重さ 19.20、B．上下端面の破片を円形に加工して利用、C．上面：ヘラナデ、下面：ナデ、側面：研磨、D．白色粒、石英粒、輝石、海綿骨針、E．上面：黒色、下面：黒褐色、F．1/2、H．No63
	19	瓦質製品	A．残長 5.9、残幅 6.7、最大厚 1.2、重さ 55.02、B．不明、C．外：ミガキ、内：ナデ→上半ミガキ、D．白色粒、E．外：灰色、内：暗灰色、F．破片、H．上層
	20	瓦質製品	A．残長 6.4、残幅 10.5、最大厚 1.5、重さ 115.41、B．粘土紐積み上げ、C．外：ヘラナデ、内：ユビナデ、D．白色粒、輝石、E．外内：灰色、F．破片、H．中層、礎層下
	21	軒丸瓦	A．残長 10.8、残幅 11.7、最大厚 2.9、重さ 542.41、B．瓦当貼付け、C．面：布目圧痕→ナデ、凸：叩き→ナデ、瓦当：三巴文→連珠文、瓦当裏：ナデ、D．黒色粒、白色粒、E．側凸：灰色、瓦当：暗灰色、F．破片、H．No160
	22	軒丸瓦	A．残長 3.1、残幅 4.4、厚さ－、重さ 110.4、B．不明、C．外縁部ミガキ、D．黒色粒、白色粒、E．瓦当：灰色、F．瓦当面外縁部 1/4、H．No112
	23	軒丸瓦	A．残長 10.0、残高 7.0、最大厚 2.2、重さ 304.93、瓦当部：外縁径 (12.0)、外縁高 0.7、瓦当厚 1.6、B．瓦当貼付け、C．瓦当部：中心部に菊花文を配し、圏線によって外側の珠文帯と区分する、内：ナデ、丸瓦部：布目圧痕、側：ヘラ切り→ナデ、D．白色粒、角閃石、E．側凸：灰色、F．瓦当面 1/4、H．No51
	24	軒丸瓦	A．残長 18.6、残幅 7.3、最大厚 2.2、重さ 435.51、B．瓦当貼付け、C．面：布目圧痕、瓦当接合部：ヨコナデ、凸：叩き→ナデ、側面：ヘラ切り、D．砂色粒、白色粒、黒色粒、石英粒、E．面：灰オリーブ色、凸：暗灰色、F．1/4、G．瓦当部剥離、瓦当接合面に圧痕を残めるとその跡様きこと斜格子が認められている、H．礎層
	25	軒丸瓦	A．残長 9.6、残幅 4.3、最大厚 1.9、重さ 168.89、B．瓦当貼付け、C．面：布目圧痕、瓦当接合部：ヨコナデ、凸：叩き→ナデ、側：ヘラ切り→ナデ、D．砂色粒、白色粒、輝石、E．側凸：灰色、F．破片、G．瓦当部剥離、H．礎層
	26	軒平瓦	A．残長 5.2、残幅 9.8、最大厚 2.9、重さ 194.82、瓦当部：瓦当高 5.0、外縁幅 0.9、外縁高 0.7、瓦当厚 2.7、B．瓦当貼付け、C．面・側・顎：ナデ、顎裏：上半ヨコナデ、D．白色粒、黒色粒、石英粒、E．側凸：灰色、F．瓦当面 1/3、G．瓦当文様は菱状文、No27・28 と同文、H．礎層
	27	軒平瓦	A．残長 5.2、残幅 7.2、最大厚 2.4、重さ 147.94、瓦当部：瓦当高 5.1、外縁高 0.7、瓦当厚 2.6、B．瓦当貼付け、C．面：ナデ、顎：ナデ、顎裏上半→凸：ヨコナデ、D．白色粒、黒色粒、E．側凸：灰色、F．瓦当面 1/4、G．瓦当文様は中心飾りが菊花文、その左右に菱状文を配す、No26・28 と同文、H．礎層
	28	軒平瓦	A．残長 3.1、残幅 5.7、最大厚 3.0、重さ 112.38、瓦当部：瓦当高 5.2、外縁高 0.6、瓦当厚 2.6、B．瓦当貼付け、C．面：布目圧痕→ナデ、顎：ナデ、顎裏：上半ヨコナデ、D．白色粒、黒色粒、E．側凸：灰色、F．瓦当面 1/3、G．瓦当文様は菱状文、No26・27 と同文、H．礎層
	29	丸瓦	A．長さ 31.0、幅 14.7、最大厚 2.8、重さ 1846.12、B．円柱状の木骨に粘土貼付け、C．面：布目圧痕、広端：ケズリ→ナデ、側縁→側面：ヘラ切り→ナデ、玉縁部裏：ナデ、凸：叩き→上半ヨコナデ→下半縦方向のヘラナデ、玉縁：ヨコナデ、D．砂色粒、白色粒、黒色粒、E．側凸：灰色、F．ほぼ完形、G．図面上半に吊り線（L）圧痕（布袋の外側にとじつけ）、布目圧痕下に糸切り痕、H．下層
W－1 溝	30	丸瓦	A．長さ 31.3、幅 14.5、最大厚 2.6、重さ 1854.72、B．円柱状の木骨に粘土貼付け、C．面：布目圧痕、広端：ケズリ→ナデ、側縁→側面：玉縁部裏：ヘラ切り→ナデ、凸：叩き→上半ヨコナデ→下半縦方向のヘラナデ、玉縁：ヨコナデ、D．砂色粒、白色粒、E．側凸：灰色、F．ほぼ完形、G．図面上半に吊り線（L）圧痕（布袋の外側にとじつけ）、No.577
	31	丸瓦	A．残長 29.3、幅 14.8、最大厚 2.9、重さ 1598.29、B．円柱状の木骨に粘土貼付け、C．布目圧痕、広端：ケズリ→ナデ、側縁→側面：ヘラ切り→ヘラナデ、玉縁部裏：ヘラ切り→ナデ、凸：縦目叩き→上半ヨコナデ→下半縦方向のヘラナデ、玉縁：ヨコナデ、D.白色粒、黒色粒、E．側凸：灰色、F．5/6、G．図面上半に吊り線（L）圧痕（布袋の外側にとじつけ）、H.No85
	32	丸瓦	A．残長 14.6、最大厚 2.6、重さ 1561.16、B．円筒状の木骨に粘土貼付け、C．面：布目圧痕、広端：ケズリ→ナデ、側縁→側面：ヘラ切り→ナデ、凸：縦目叩き→ヨコナデ→縦方向のヘラナデ、玉縁：ナデ、D．白色粒、黒色粒、E．側凸：灰色、F．5/6、G．図面に吊り紐痕は見られない、H．礎層下、礎層
	33	丸瓦	A．残長 12.7、残幅 7.6、厚さ 2.4、重さ 235.71、B．円筒状の木骨に粘土貼付け、C．面：布目圧痕、端：ヘラ切り、凸：縦目叩き→ナデ、玉縁：ヨコナデ、D．砂色粒、白色粒、E．側凸：にぶい黄橙色、F．破片、H．礎層
	34	丸瓦	A．残長 10.2、残幅 8.7、厚さ 2.6、重さ 209.81、B．円柱状の木骨に粘土貼付け、C．面：布目圧痕→ナデ、凸：縦目叩き→ナデ、玉縁：ヨコナデ、D．白色粒、黒色粒、E．側凸：灰色、F．破片、G．釘穴あり、H．下層
	35	丸瓦	A．残長 12.0、残幅 7.8、最大厚 2.2、重さ 406.34、B．円柱状の木骨に粘土板巻き付け、C．面：布目圧痕、側：ヘラナデ、凸：縦目叩き→ナデ、D．砂色粒、白色粒、石英粒、E．側凸：灰黄褐色、F．1/4、G．図面に吊り紐圧痕、布目圧痕下に釘方向の糸切り痕、H．礎層
	36	丸瓦	A．残長 26.3、残幅 9.4、厚さ 2.7、重さ 1036.89、B．円柱状の木骨に粘土貼付け、C．面：布目圧痕、広端面ケズリ→ナデ、側縁→側面：ヘラ切り→ナデ、凸：上半ヨコナデ→縦方向のヘラナデ、玉縁部ヨコナデ、D．砂色粒、白色粒、黒色粒、E．側凸：灰色、F．1/3、G．図面上半に吊り紐（L）圧痕（布袋の外側にとじつけ）、H．礎層
	37	丸瓦	A．残長 13.2、残幅 7.5、厚さ 2.5、重さ 377.57、B．円柱状の木骨に粘土貼付け、C．面：布目圧痕→ナデ、玉縁：ナデ、側縁：ヘラ切り→ナデ、凸：ヨコナデ、D．白色粒、黒色粒、E．側凸：灰色、F．破片、G．図面に吊り紐圧痕あり、H．下層
	38	丸瓦	A．残長 11.9、残幅 4.7、最大厚 2.1、重さ 226.66、B．円柱状の木骨に粘土巻き付け、C．面：布目圧痕、側縁→側：ヘラ切り→ナデ、凸：叩き→ナデ、D．白色粒、石英粒、輝石、E．側凸：黒色、F．破片、G．図面に吊り紐圧痕あり、H．礎層
	39	丸瓦	A．残長 21.0、残幅 9.4、最大厚 2.2、重さ 569.38、B．円柱状の木骨に粘土貼付け、C．面：布目圧痕、側縁・側：広端：ヘラ切り→ナデ、凸：縦目叩き→ナデ、D．白色粒、黒色粒、E．側凸：灰色、F．破片、H．礎層
	40	丸瓦	A．残長 7.5、残幅 11.9、最大厚 2.1、重さ 201.23、B．円柱状の木骨に粘土板巻き付け、C．面：布目圧痕→部分的なナデ、凸：叩き→ナデ、D．白色粒、黒色粒、E．側凸：灰色、F．破片、H．礎層下
	41	道具瓦	A．残長 8.6、残幅 11.2、厚さ 2.2、重さ 224.10、B．不明、C．面：ナデ、側縁・側：ヘラ切り、凸：縦目叩き→ナデ、D．白色粒、黒色粒、E．側凸：灰色、F．破片、H．礎層下
	42	丸瓦	A．残長 9.4、残幅 6.4、最大厚 1.8、重さ 113.18、B．円柱状の木骨に粘土貼付け、C．面：布目圧痕、側縁・側・広端：ヘラ切り→ナデ、凸：叩き→ナデ、D．砂色粒、白色粒、E．側凸：灰色、F．破片、H．礎層下
	43	平瓦	A．長さ 32.2、最大幅 25.8、最大厚 2.3、重さ 2016.81、B．凸台一枚作り、C．面：縦方向の丁寧なナデ、凸：ナデ、側・端：ヘラ切り→ナデ、D．砂色粒、白色粒、石英粒、E．面：にぶい赤褐色、凸：にぶい黄橙色、F．3/4、G．凸面側の端縁付近に低圧痕あり、H．礎層下、中層、下層
	44	平瓦	A．残長 13.1、残幅 16.2、最大厚 1.6、重さ 358.20、B．一枚作り、C．面：布目圧痕→ヘラケズリ→ヘラナデ、凸：糸切り→叩き、側・端：ヘラ切り→ナデ、D．白色粒、黒色粒、石英粒、角閃石、E．面：灰白色、凸：にぶい黄橙色、F．1/5、G．凸面側にも糸切りの痕跡が残る、H．下層
	45	平瓦	A．残長 16.7、残幅 15.0、厚さ 1.9、重さ 455.81、B．一枚作り、C．面：ナデ、凸：叩き→ヘラナデ、側・端：ヘラ切り→ナデ、D．白色粒、黒色粒、輝石、E．面凸：灰色、F．破片、G．凸面側に幅 1 cm の浅く細い平行沈線が見られる、H．下層
	46	平瓦	A．残長 17.4、残幅 11.0、厚さ 2.5、重さ 616.90、B．一枚作り、C．面：ナデ、凸：叩き→ナデ、側：ヘラ切り→ヘラナデ、D．砂色粒、白色粒、輝石、E．側凸：灰黄色、F．1/4、H．下層
	47	平瓦	A．残長 16.9、残幅 12.4、厚さ 2.1、重さ 563.44、B．一枚作り、C．面：丁寧なナデ、凸：ケズリ→部分的なナデ、D．砂色粒、白色粒、石英粒、輝石、E．側凸：にぶい橙色、F．1/4、G．凸面側に煤付着、H．No89
	48	平瓦	A．残長 19.3、残幅 11.3、最大厚 2.5、重さ 562.68、B．一枚作り、C．面：丁寧なナデ、凸：ナデ、側・端：ヘラ切り→ナデ、D.砂色粒、白色粒、黒色粒、石英粒、E．面：灰黄褐色、凸：にぶい黄橙色、F．1/4、H．礎層、礎層下
	49	平瓦	A．残長 11.1、残幅 8.3、厚さ 2.0、重さ 164.78、B．一枚作り、C．面：丁寧なナデ、凸：糸切り→ナデ、側・端：ヘラ切り→ナデ、D．砂色粒、白色粒、黒色粒、E．側凸：灰色、F．破片、G．凸面に糸切り痕が残る、H．中層

Tab. 11　出土遺物観察表（3）

計測値（cm・g）

遺構名	No.	図種	A－出象、B－成形、C－整形・調整、D－粘土・材質、E－色調、F－残存度、G－備考、H－出土層位・位置
W－1 溝	50	平瓦	A．残長18.8,残幅11.3,厚さ2.4,重さ606.43g．B．一枚作り．C．凹：丁寧ケナデ,凸：ナデ,側・端：ヘラ切りーナデ．D．砂色粘,白色粒,石英粒,雲母,輝石．E．凹凸：灰黄褐色,色：灰色．F．1/4．G．凸面側縁一側面煤付着．H．下層
	51	平瓦	A．残長10.3,残幅10.4,厚さ2.6,重さ286.65g．B．一枚作り．C．凹：ナデ,凸：叩き→ナデ,側・端：ヘラ切り→ナデ．D．砂色粘,白色粒．E．凹：にぶい黄橙色,凸：黄灰色．F．破片．G．凹凸一側面被熱煤付着．H．下層
	52	平瓦	A．残長14.2,残幅10.3,厚さ2.9,重さ453.22g．B．一枚作り．C．凹：布目圧痕→ナデ,凸：叩き→ナデ,側・側縁・端：ヘラ切り→ナデ．D．白色粒,黒色粒．E．凹凸：灰色．F．破片．G．端部中央付近は方向で補強している．H．縄層
	53	道具瓦	A．残長9.6,残幅7.2,最大厚2.7,重さ231.70g．B．円柱状の木骨に粘土貼付け．C．凹：ナデ,両広端・側縁・側：ヘラ切り→ナデ,凸：叩き→ナデ．D．白色粒,黒色粒,小石．E．凹凸：灰黄色．F．1/2．H.No101
	54	道具瓦	A．残長10.8,残幅5.4,最大厚2.5,重さ123.23g．B．円柱状の木骨に粘土貼付け．C．凹:布目圧痕→ナデ,両広端・側：ヘラ切り→ナデ,凸：叩き→ナデ．D．砂色粘,白色粒,小石．E．凹：茂黄色,凸：暗灰黄色．F．破片．H．上層
	55	鬼瓦	A．残長24.6,残幅14.1,残最大厚8.3,重さ1010.B．円柱状の木骨に粘土貼り付け．C．凹：ナデ→ヘラナデ,凸：ナデ→ヘラナデ,眉部はヘラ状工具（ヘラ刃）による切り落とし と竹管状工具による円形刺突を実施．D．石英,白色粒,黒色粒,灰色粒．E．凹凸：灰色．F．眉部一鼻部破片．G．破断面に骨組み収縮とみられる穴あり．H.No42・80
	56	鬼瓦	A．残長7.9,残幅12.05,最大厚7.55,重さ367.0.B．板状の粘土に粘土塊を貼り付け．C．凹：ナデ→ヘラナデ,凸：ナデ→ヘラナデ,鼻部は断面V字状の沈線で表現．D．石英,黒色鉱物,黒色粒,白色粒．E．凹凸：灰色．F．鼻・牙・士台破片．G．55と粘土が近似．H.No45
	57	鬼瓦	A．残長7.6,残幅6.6,最大厚3.5,重さ134.06.B．板状の粘土に粘土塊を貼り付け．C．凹：ナデ→ヘラナデ,凸：ナデ→ヘラナデ,側面：にぶい黄橙色,凸：灰オリーブ色．F．士台破片．H．縄層
	58	鬼瓦	A．残長4.40,残幅5.0,残最大厚2.2,重さ19.86.B．眉部はヘラ状工具（刃子）による切り落とし,掻き破り痕あり．板状の粘土に粘土塊を貼り付け．C．凹（剥離面）：ナデ・掻き破り痕,凸：ナデ,鼻部は断面V字状の沈線で表現．D．石英,黒色粒．E．凹：灰色,凸：灰オリーブ色．F．眉部破片．G．一部赤彩,黒煤あり．H．下層
	59	鬼瓦	A．残長4.9,残幅3.1,残最大厚3.6,重さ29.88.B．ソケット状に成形．C．凹（剥離面）：ナデ,凸：ヘラナデ,D．石英,白色粒．E．凹：灰色,凸：灰オリーブ色．F．鼻破片部破片．H.No11
	60	鬼瓦	A．残長7.5,残幅5.9,残最大厚3.2,重さ116.95.B．粘土塊り合わせ．C．凹：ナデ,凸：ケズリ→ヘラナデ,D．石英,黒色粒,灰色礫（～3mm）．E．凹凸：黄灰色．F．鼻部破片．G．漆し塗成,H．縄層下
	61	鬼瓦	A．残長7.7,残幅7.95,残最大厚2.8,重さ116.90.B．円柱状の木骨に粘土貼り付け．C．凹：ヘラナデ,凸：ナデ・ヘラナデ,D．石英,黒色粒,灰色礫．E．凹凸：黄灰色．F．凸部破片．G．漆し塗成（銀色雲母塗布か）,H．縄層
	62	鬼瓦	A．残長6.1,残幅8.1,最大厚4.5,重さ151.00.B．円柱状の木骨に粘土貼り付け．C．凹：ケズリ→ナデ・ヘラナデ,凸：ナデ,D．多量の黒色粒（～2mm）,石英,白色粒．E．凹：黄灰色,凸：暗灰黄色．F．口部破片か．H．下層
	63	鬼瓦	A．残長6.2,残幅7.3,残最大厚3.9,重さ88.77.B．円柱状の木骨に粘土貼り付け．C．凹：ナデ・ヘラナデ,凸：ナデ,鼻部は断面V字状の沈線で表現,D．石英,チャート,黒色粒,E．凹：暗灰黄色,凸：灰色,F．口部破片,H．上層
	64	鬼瓦	A．残長3.4,残幅3.1,最大厚4.4,重さ31.40.B．板状の粘土を貼り合わせ,C．凹：ナデ,凸：ナデ,鼻部は断面U字状の沈線で表現,D．多量の白粒,石英,黒色鉱物,灰色粒,E．凹：灰色,凸：灰色・灰オリーブ色,F．士台・口部破片,H．中層
	65	鬼瓦	A．残長6.2,残幅4.7,残最大厚2.1,重さ42.40.B．板状の粘土を貼り合わせ,C．凹：欠損,凸：ヘラナデ,D．石英,白粒,黒色粒,E．凹：欠損,凸：灰色・オリーブ灰色,F．部位不明（士台破片か）,G．漆し塗成,H．上層
	66	鬼瓦	A．残長5.0,残幅5.9,最大厚2.6,重さ47.95.B．粘土貼り合わせ（アーチ状に成形）,C．凹：ナデ→ヘラナデ,凸：摩滅のため不明,D．石英,白粒,黒色粒,E．凹凸：灰オリーブ色,F．士台破片,H．上層
	67	鯱瓦	A．残長9.2,残幅7.6,最大厚3.1,重さ164.68.B．円柱状の木骨に粘土貼り付けか．C．凹：ナデ→ヘラナデ,凸：ヘラナデ→竹管状工具による刺突で鱗を表現．D．多量の白粒,石英,黒色粒,E．凹：暗灰黄色,凸：赤,F．破片,H.No33
	68	五輪塔（火輪）	A．残高8.1,残幅10.0,最大厚6.1,重さ211.41.B．打ち欠き→ケズリ,C．各面とも研磨,D．角閃石安山岩,E．灰黄色,F．破片,G．破面を観石に二次利用した形跡が見られる．H.No6
	69	石製品	A．残長12.3,残幅10.2,残存厚6.6,重さ474.60.B．打ち欠き→ケズリ,C．各面とも丁寧な研磨,D．角閃石安山岩,E．灰黄色,F．破片,H．縄層
	70	礎石	A．残長6.0,残幅3.4,厚さ3.4,重さ62.12.B．柱状礎石の破片を利用,C．各面とも研磨,D．流紋岩,E．灰白色,F．破片,G．各面に刃部による条痕が見られる,H．W1
	71（上目）	石仏（火輪）	A．直径(34.0)，残高11.1,重さ7650.B．打ち欠き→ケズリ,C．上面：髹ケズリ→髹ケ研磨,下面：研磨→擂り目（六角）,側面：ケズリ→髹ケ研磨,D．安山岩,E．褐灰色,F．1/2,G．側面の抉本穴は正方形,平面にものくぼけを伴う,上縁部はチャモ打ち欠かれている,H.No14
	72	五輪塔（火輪）	A．残長23.6,幅23.4,高さ11.6,重さ4100.B．打ち欠き→ケズリ,C．各面とも髹ケ研磨,D．角閃石安山岩,E．灰黄色,F．ほぼ完形,H.No11
	73	石碑	A．残高30.0,最大幅16.5,最大厚8.5,重さ4300.B．打ち欠き→表は平坦,裏は丸く ケズリ,C．表面：研磨,裏：髹ケズリ,D．安山岩,E．褐灰色,F．破片,G．銘文は読まれていない,表面と右側面の一部に煤付着,H.No9
	74	磴	A．残長23.5,残幅14.8,厚さ8.6,重さ2650.B．打ち欠き→ケズリ,C．各面とも髹ケズリ調整,D．安山岩,E．灰赤色,F．破片,G．表裏面の一部に漆喰付着,H.No10
	75	銅製盃	A．直径2.7～2.8,厚さ0.1,重さ3.81.B．円盤に粗手鳴付け,D．銅製,F．完形,H.No65
	76	鈴灯	A．残長4.6,2.8,幅・厚さ8.7,重さ6.41.B．鋳造,C．断面四角形,D．鉄製,F．3/4,H.W1
	77	不明鉄製品	A．残長1.5,残幅2.2,最大厚0.9,重さ6.10.B．鍛造,C．くの字に折れ,L字状起をもつ,D．鉄製,F．破片,H．上層
	78	須恵器高台付埦	A．残高6.2,高台部径(11.4),B．ロクロ成形,高台部貼付け,C．外：体部～高台部回転ナデ,底部回転糸切り→回転ナデ,内：回転ナデ,D．精色粒,白色粒,E．外：褐灰色,内：灰色,F．高台部1/4,G．古代,H．縄層
	79	軒平瓦	A．残長13.0,残幅10.3,厚さ2.5,瓦当高4.5,重さ520.90.B．折り曲げ（凸面側に折り曲げて,裏側に粘土貼付け）,C．凹：ヘラナデ→瓦当部上面横方向のケズリ,凸：顎部ヨコナデ→凸面縦方向ケズリ→型押文（格子目）,D．精色粒,白色粒,石英,E．凹：褐色,凸：にぶい黄色色,F．瓦当面1/3,G．瓦当文様一外区：珠文,内区：右偏向唐草文,古代,H.No12
	80	平瓦	A．残長8.5,残幅10.8,厚さ2.1,重さ196.10.B．不明,C．凹：布目圧痕,凸：縄目叩き→擦：ヘラ切り,D．白色粒,精色粒,E．凹凸：灰オリーブ色,F．破片,G．凹面に木骨痕を残す,古代,H．縄層下
	81	平瓦	A．残長10.9,残幅6.2,厚さ2.0,重さ160.90,B．一枚作り,C．凹：ナデ,凸：叩き→ナデ→型押文（斜格子文）,D．白色粒,E．凹凸：暗灰色,F．破片,G．古代,H.No108
	82	平瓦	A．残長7.6,残幅7.3,厚さ1.6,重さ82.69,B．一枚作り,C．凹：布目圧痕,凸：叩き→ナデ→型押文（斜格子文）,D．白色粒,E．凹凸：暗灰色,F．破片,G．古代,H．上層
	83	平瓦	A．残長11.7,残幅10.0,厚さ1.7,重さ164.56,B．一枚作り,C．凹：布目圧痕,凸：叩き→型押文（斜格子文）,D．白色粒,黒色粒,石英粒,E．凹凸：灰白色,F．破片,G．凸面内面に糸切り痕を残す,古代,H．縄層下
	84	平瓦	A．残長7.8,残幅6.9,厚さ1.8,重さ126.28,B．一枚作り,C．凹：布目圧痕,凸：叩き（斜格子叩き目）,側縁・側：ヘラ切り→ナデ,D．白色粒,石英,E．凹：黄灰色,凸：灰色,F．破片,G．凹面に糸切り痕を残す,古代,H.W1
	85	平瓦	A．残長5.6,残幅4.0,厚さ1.8,重さ83.95,B．一枚作り,C．凹：布目圧痕,凸：縄目叩き→ナデ,側：ヘラ切り,D．白色粒,黒色粒,E．凹凸：暗灰色,F．破片,G．凸面に他成面の微妙な文字あり,古代,H.W1
	86	輪羽口	A．残長4.1,残幅4.3,厚さ2.7,重さ38.53,B．不明,C．外内：ナデ,D．精色粒,白色粒,E．外：黒～灰色,内：灰褐色,F．破片,G．外面上端は被熱による発泡跡が見られる,古代,H.W1
W－2 溝	1	丸瓦	A．残長8.2,残幅7.6,最大厚2.2,重さ188.20,B．円柱状の木骨に粘土貼り付け,C．凹：布目圧痕,側縁・側：ヘラ切り→ナデ,広端：ケズリ→ナデ,凸：叩き→ナデ,D．精色粒,白色粒,輝石,E．凹：暗灰黄色,凸：黄灰色,F．破片,G．凹面布目圧痕下に針方向の糸切り痕,H.W2
	2	平瓦	A．残長9.3,残幅7.6,最大厚2.1,重さ167.09,B．一枚作り,C．凹：丁寧なナデ,凸：叩き→ナデ,側：ヘラ切り→ナデ,D．精色粒,白色粒,角閃石,E．凹凸：にぶい黄橙色,F．破片,H.W2
	3	軒丸瓦	A．残長8.4,残幅9.6,最大厚2.2,重さ258.54,B．不明,C．凹：布目圧痕→瓦当接合部ヨコナデ,凸：叩き→ケズリ,D．精色粒,白色粒,E．凹凸：黒褐色,F．破片,H.W2

Tab. 12　出土遺物観察表（4）

計測値（cm・g）

遺構名	No.	器種	A－法量、B－成形、C－整形・調整、D－粘土・材質、E－色調、F－残存度、G－備考、H－出土層位・位置
W－2溝	4	平瓦	A．残長11.5，残幅6.9，最大厚1.6，重さ123.18，B．一枚作り。C．凹：布目圧痕→平行横方向のケズり。凸：叩き→ナデ→型押文（斜格子文）。D．褐色粒，白色粒，石英，E．凹凸：にぶい黄橙色，F．破片，H．M2
D－7土	1	釘	A．残長6.0，幅0.6～1.0，厚さ0.6～0.9，重さ14.88，B．鍛造，C．断面西角形，D．鉄製，F．先端部欠損，H．H2No4
D－9土	1	須恵器坏	A．口径（11.2），器高4.0，底径（4.8），B．粘土紐積み上げ→ロクロ整形，C．外：口縁部～体部回転ヘラナデ，底部回転糸切り。内：口縁部～底部回転ナデ。D．褐色粒，白色粒，E．外内：にぶい橙色，F．口縁部1/4，G．酸化焔焼なる，H．No2
	2	灰釉陶器高台付皿	A．口径（12.6），器高2.5，高台部径（6.2），B．ロクロ成形，高台部貼付け，C．外：口縁部～高台部回転ナデ，底部ナデ→口縁部灰釉，内：口縁部～底部回転ナデ→口縁部灰釉，D．白色粒，E．外内：灰白色，F．口縁部1/4，G．灰釉は掛け静け，H．No3
D－11土	1	鉄製品	A．残長12.7，最大幅0.8，最大厚0.8，重さ17.60，B．鍛造，C．断面西角形，D．鉄製，F．上端部欠損，G．下端は尖る，H．No1
D－21土	1	平瓦	A．残長20.6，残幅14.6，最大厚1.6，重さ612.81，B．合せ一枚作り，C．凹：布目圧痕→丁寧なナデ，側縁：ヘラ切り→ナデ，凸：縄目（1.5）叩き，側・上端：ヘラ切り，D．白粒，石英粒，E．凹凸：黒灰色，F．1/4，G．凹面に平行沈線（焼成前）のヘラ記号あり，凸面被熱により一部変色，H．H2No2
D－27土	1	緑釉陶器高台付椀	A．残高2.1，高台部径（7.4），B．ロクロ成形，高台部貼付け，C．外内：回転ナデ→緑釉，D．白色粒，E．外内：淡緑色，F．高台部1/3，H．B27No11・H6No2
D－34土	1	平瓦	A．残長17.8，残幅12.0，厚さ1.8，重さ513.44，B．粘土板巻き付け，C．凹：布目圧痕，側縁→ヘラ切り→ナデ。凸：叩き→ナデ。側・端→ヘラ切り→ナデ，D．白色粒，黒色粒，石英，E．凹凸：灰色，F．1/4，G．凹面煤付着，H．No1
遺構外	1	縄文土器深鉢	B．粘土紐積み上げ，C．外：地文（単節縄文）施文→隆線沈線文，内：ナデ，D．白色粒，黒色粒，石英粒，E．外内：褐色。F．胴部破片，G．縄文時代中期　加曽利E Ⅰ～E Ⅱ式，H．H10 住ホリカタ
	2	縄文土器深鉢	B．粘土紐積み上げ，C．外内：ミガキ，D．赤褐色粒，白色粒，石英粒，角閃石，E．外：にぶい赤褐色，内：赤褐色。F．口縁部破片，G．縄文時代晩期か，H．B5 住
	3	柱状砥石	A．残長6.2，残幅2.7，最大厚2.5，重さ51.72，B．四角柱状に加工，C．各面とも研磨，端面以外は良く磨れている。D．泥岩製，E．灰白色，F．2/3，G．各砥面には細い条痕状の擦痕が見られる，H．調査区
	4	鉄釘	A．残長5.2，残幅3.8，厚さ1.1，重さ26.05，B．鍛造，C．断面西角形，クランク状に曲がり，頭部は潰いている。D．鉄製，F．1/2，H．調査区
	5	鉄釘	A．残長6.7，幅2.0，厚さ1.2，重さ15.30，B．鍛造，C．断面四角形の棒状鉄製品が複数錆着，D．鉄製，F．破片，H．調査区

Ⅵ　まとめ

小見廃寺について　本調査区で検出されたW－1・2号溝は後述する内容から木津博明氏によって命名された仮称「小見廃寺」を区画する溝の一部と考えられる。小見廃寺の創建は中間地域遺跡（註1）B区1号溝出土の土器・瓦の年代から14世紀後半と推定され、基壇状遺構の下限はこれを壊す中世土坑墓群の帰属時期から15世紀中頃に求められている。また、寺院としては基壇状遺構の建物廃絶後16世紀代まで存続していた可能性が指摘されている（木津1986）。本調査区で多数出土した土器や瓦からも上記の年代観が追認される（註2）。また、この年代観から造営主体者は上杉憲顕が上野守護に補任された貞治2年（西暦1363年）以降の上杉氏ないし長尾氏が想定されている（木津2019）。

寺域の規模・範囲　中間地域遺跡で検出された小見廃寺区画溝の東西辺（B・C区1号溝）は幅4.2～6.4 m、深さ1.6～1.8 mを測る。本調査区のW－1号溝は南北溝の東辺に相当し、土層断面で確認した最大幅は3.8 mである。中間地域遺跡より幅は狭く、主軸方位がN－10°－Eで東西辺と直交しないものの、溝断面の形状は逆台形状で共通する。また、覆土中位より多量の礫や瓦が出土する状況も中間地域B区1号溝と酷似する。W－2号溝は最大幅1.25 mを測り、土層断面の観察からW－1号溝に先行する区画溝である。主軸方位はN－1°－Eでほぼ真北を示す。これに対応すると推定される同規模の東西溝は中間地域遺跡C区4・7号溝である。これらの溝によって区画された寺域の規模は東西約100 m、南北約78 mで面積は約7,800 ㎡を測る。全体的な平面形状は東西に長く、南北に短い歪な長方形を呈するものと推定される。

構造　中間地域遺跡ではB区1号溝の北側に土塁の痕跡が残存していた。本調査区においては土塁の痕跡は検出されず、存在は不明である。また、B区1号溝の中央部には橋脚の痕跡とみられるピット列が検出されており、土塁痕跡の途切れる部分と橋脚の位置が一致する（出入口か）。本調査区でも橋脚とみられるピットを確認したが、中間地域例と比較すると溝底面からの掘り込みが浅く、貧弱な印象を受ける。溝で区画された寺域内には同時存在の建物として総底付で4間×7間の掘立柱建物跡が1棟、基壇を伴う建物跡が3想定されている。このほか井戸跡、集石遺構、暗渠状の遺構などが検出され、井戸跡からは中世瓦が出土している。

周辺の区画溝・道　小見廃寺の寺域の外側でも中世の溝や堀・道が多数検出されている。この中で小見Ⅲ遺跡4区（地図外）で検出された東西堀（4区W－1号溝）は上幅5 m、深さ2.5 mという規模から蓄海城の最外郭の堀と想定されている。この堀と平行ないし直交する溝が多数検出されており、本調査区付近で検出されている溝

①などもそれに相当する。溝②・③は方形区画を構成すると見られ、『蒼海（93 街区）』では蒼海城の最外郭施設か別の砦跡の可能性が指摘されている（南田 2016）。これらの区画溝は小見廃寺の南北溝や東西溝とも直交ないし平行することから、時期的な近接や相互の関連性が窺われる。

鬼瓦について　本調査区で出土したW－１号溝 55（fig.20）は、各部を粘土塊によって作出し、貼り合わせることで成形されており、立体的な表現が際立っている。眉間部と鼻部間にある粘土塊には平面「ハ」の字状に小孔が確認された。この小孔は破断面のみに認められることから、粘土塊貼り付け時の骨組み（フレーム）痕跡と推定した。また、眉部に円形の刺突文が充填され、同様の手法は『中間地域遺跡』526 図９のみであった。

本章では小見廃寺の寺域を中心に考察を行ったが、周辺遺跡の事例分析や出土遺物の比較等には及ばなかった。今後検討すべき課題として挙げることで結びとしたい（註３）。

註

(1) 上野国分僧寺・尼寺中間地域遺跡を中間地域遺跡、元総社蒼海遺跡群を蒼海と省略して表記する。
(2) 本調査区で出土した内耳土鍋は 15 世紀後半を主体とする。また、軒丸・軒平瓦は本津氏分類（1986）の第２種（fig.17-21）、第４種（fig.17-26～28）、第６種（fig.17-23）が確認されている。
(3) 出土遺物の分析や小見廃寺の歴史的背景についての考察は本津 1986 で詳細に行われているため、そちらを参照願いたい。

引用・参考文献

南田浩正　2016『Ⅵ　まとめ』『元総社蒼海遺跡群（93 街区）』 前橋市教育委員会・株式会社しまむら・有限会社毛野考古学研究所
本津博明　1986「第５章第４節第３～７項」『上野国分僧寺・尼寺中間地域』第１分冊　群馬県教育委員会・（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団
本津博明　2019「上野」『中世瓦の考古学』 高志書院

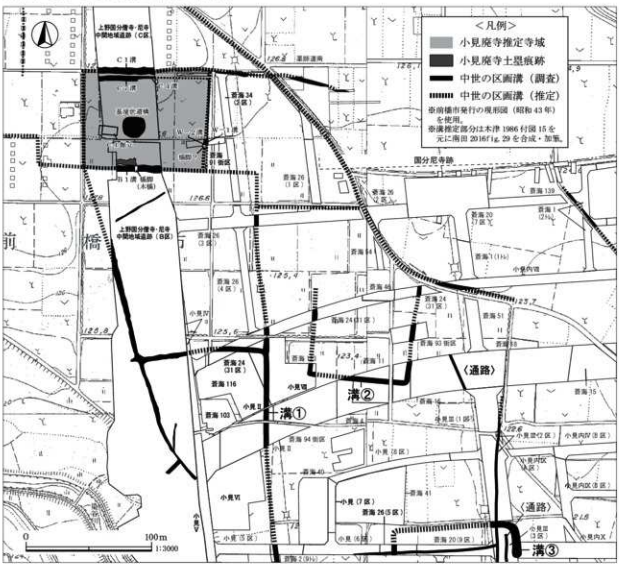
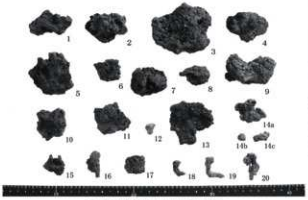


Fig. 23　仮称「小見廃寺」の寺域と周辺

写　真　図　版

調査区遠景（東から：奥に上野国分寺跡）



非実測鉄滓・鉄製品集合

W－１号溝 55 鬼瓦の骨組み痕跡

調査区 全景（上が東）

Ｈ－１号住居跡 全景（西から）

Ｈ－１号住居跡カマド１掘り方 全景（西から）

Ｈ－２号住居跡 全景（西から）

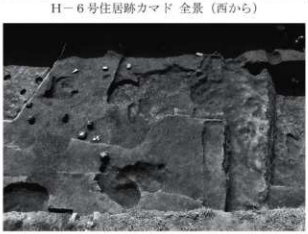
Ｈ－５号住居跡 全景（西から）

Ｈ－５号住居跡カマド 遺物出土状態（西から）

Ｈ－６号住居跡 全景（西から）

Ｈ－６号住居跡カマド 全景（西から）

Ｈ－７号住居跡 全景（北東から）



Ｈ－８・９・10号住居跡 全景（北から）

Ｗ－１・２号溝 全景（北東から）

Ｗ－１号溝上層 礫検出状態（北東から）

Ｗ－１号溝中層 遺物出土状態（北東から）

W－1号溝中層 鬼瓦出土状態（北東から）

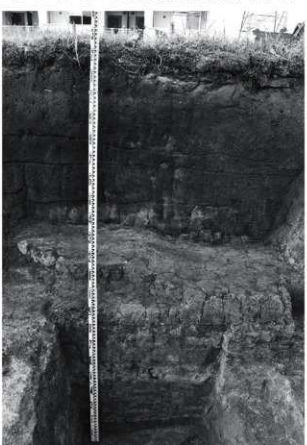
W－1号溝橋脚か検出状態（北西から）

D－1号土坑 全景（南から）

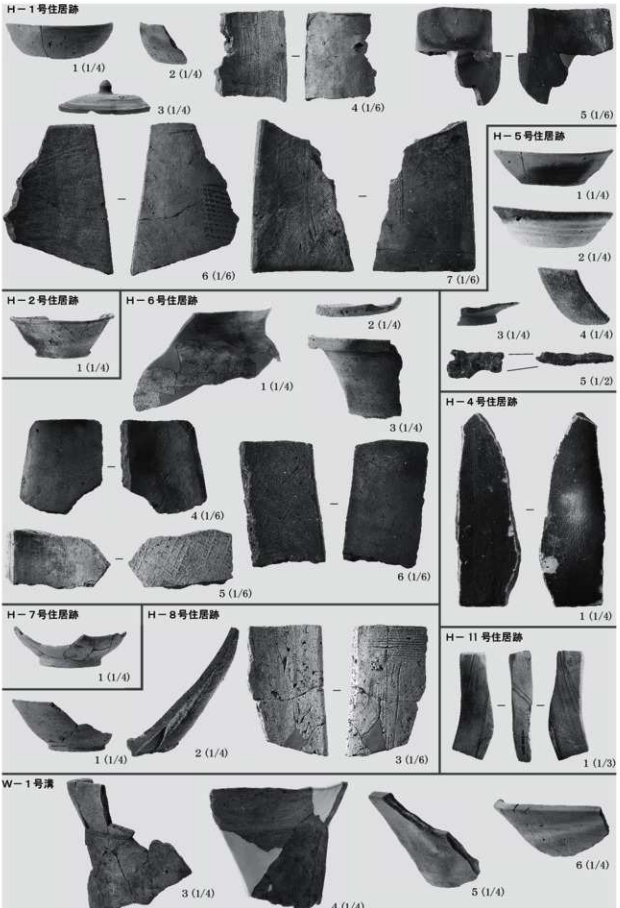
D－7～9・18・19号土坑 遺物出土状態（西から）

D－11号土坑 全景（東から）

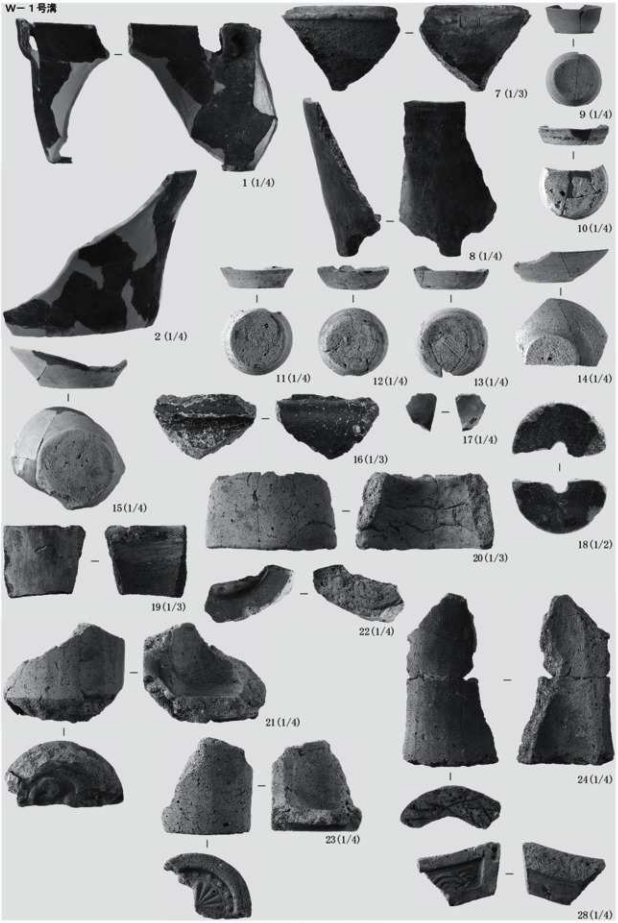
D－27・30・33号土坑 遺物出土状態（東から）



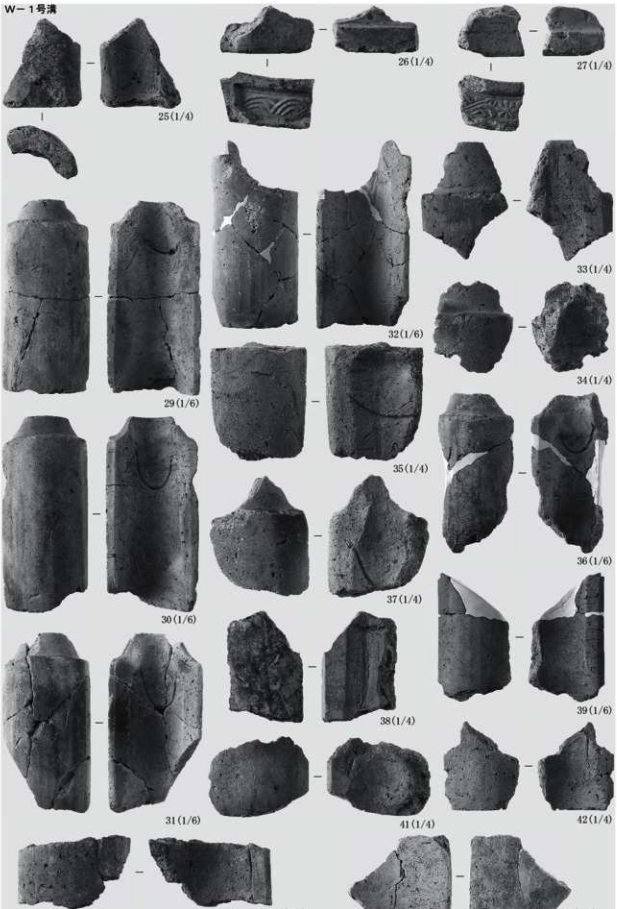
標準堆積土層D（南から）



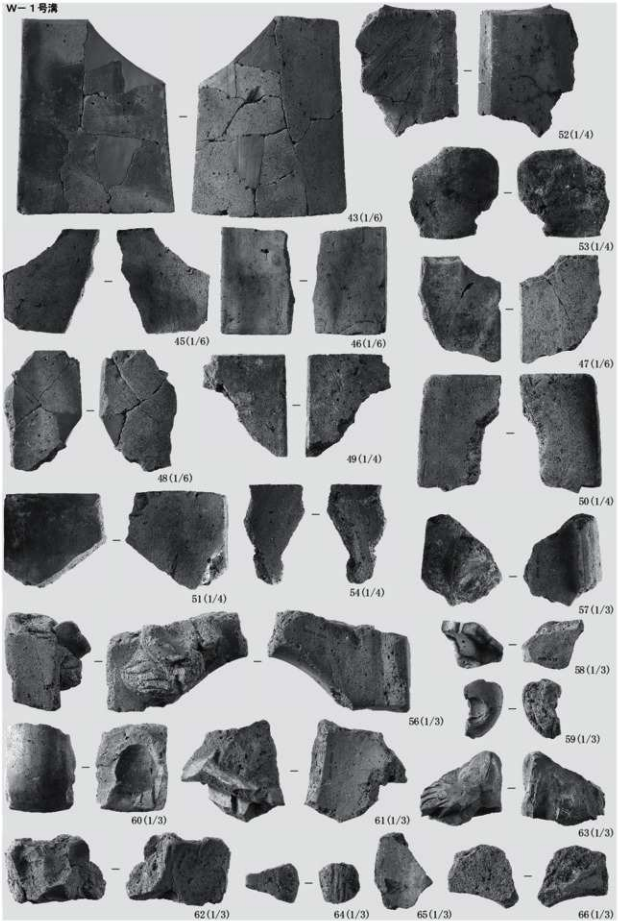
出土遺物１（Ｈ－１・２・４～８・11 号住居跡・Ｗ－１号溝①）


W－１号溝
1 (1/4)
2 (1/4)
7 (1/3)
8 (1/4)
9 (1/4)
10 (1/4)
11 (1/4)
12 (1/4)
13 (1/4)
14 (1/4)
15 (1/4)
16 (1/3)
17 (1/4)
18 (1/2)
19 (1/3)
20 (1/3)
21 (1/4)
22 (1/4)
23 (1/4)
24 (1/4)
28 (1/4)

出土遺物２（W－１号溝②）

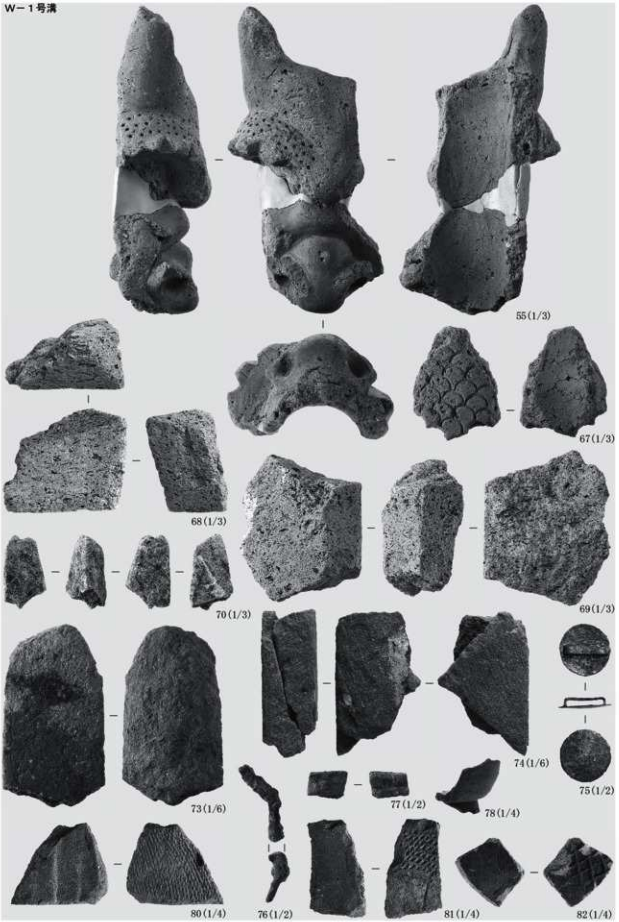

W－１号溝
25(1/4)
26(1/4)
27(1/4)
29(1/6)
30(1/6)
31(1/6)
32(1/6)
33(1/4)
34(1/4)
35(1/4)
36(1/6)
37(1/4)
38(1/4)
39(1/6)
40(1/4)
41(1/4)
42(1/4)
44(1/6)

出土遺物３（Ｗ－１号溝③）

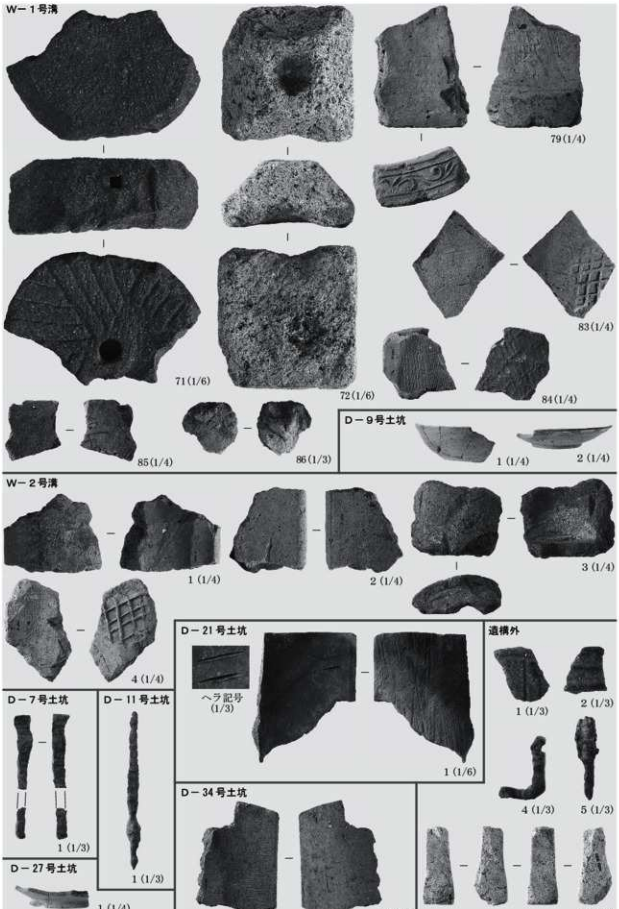

W－1号溝
43(1/6)
52(1/4)
53(1/4)
45(1/6)
46(1/6)
47(1/6)
48(1/6)
49(1/4)
50(1/4)
51(1/4)
54(1/4)
57(1/3)
58(1/3)
56(1/3)
59(1/3)
60(1/3)
61(1/3)
63(1/3)
62(1/3)
64(1/3)
65(1/3)
66(1/3)

出土遺物４（W－１号溝④）

W－１号溝



出土遺物５（Ｗ－１号溝⑤）



出土遺物6 (W－1号溝⑥・W－2号溝・D－7・9・11・21・27・34号土坑・遺構外)

抄　録

フリガナ	モトソウジャオウミイセキグンキュウジュウイチガイク
書名	元総社蒼海遺跡群（91 街区）
副書名	建売住宅建築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	
編著者名	並木史一　淺間陽
編集機関	有限会社 毛野考古学研究所
発行機関	前橋市教育委員会
発行機関所在地	〒371－0853　群馬県前橋市総社町3-11-4　℡ 027－280－6511
発行年月日	西暦 2023 年 7 月 31 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 （日本測地系）	東経 （日本測地系）	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
もとそうじゃおうミ ゐ 元総社蒼海 いせきぐん 遺跡群（91 街区）	ぐんまけんまえばしし 群馬県前橋市 もとそうじゃおうまち 元総社町 1730	102016	4A282	36° 23′ 40″	139° 1′ 34″	20230301 ～ 20230413	160	建売住宅 建築

所収遺跡名		種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
元総社蒼海 遺跡群（91 街区）		集　落 寺院跡	縄文時代 奈良時代 平安時代 中　世	竪穴住居跡　11 軒 溝　2 条 土坑　39 基 ピット　34 基	縄文土器　石器 土師器　須恵器 灰釉陶器　緑釉陶器 瓦（古代・中世） かわらけ　瓦質土器 陶磁器（焼締陶器・青磁）　土製品　鉄製品　銅製品　鉄滓 羽口	中世寺院跡（小見廃寺）を区画する溝から多量の瓦が出土。

元総社蒼海遺跡群（91 街区）

建売住宅建築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

令和5年7月24日印刷
令和5年7月31日発行

編　集／有限会社毛野考古学研究所
発　行／前橋市教育委員会
前橋市総社町 3-11-4
℡ 027-280-6511
印　刷／朝日印刷工業株式会社